

青年招へい事業


中国

[交流レポート]

1996

国際協力事業団

JICA
105
36
TAY
RARY

JICA LIBRARY

J 1133043 (8)

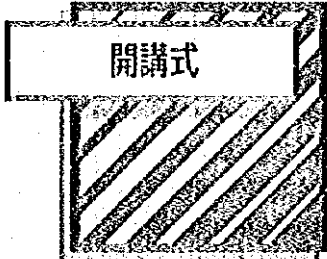
研青
JR
96-31



1133043 (8)

信頼と友好への第一歩

平成8年度新留中青年の友情訪問／新中国奥務者招へい訪問



国際協力事業団より歓迎のあいさつ



外務省より歓迎のあいさつ



中国青年代表よりあいさつ



期待に胸をふくらませて



中国青年代表よりあいさつ

共通プログラム



熱心にノートをとる青年



真剣に講義を聞く参加青年



日本人参加者と一日交流(体験的日本語学習)



ホームステイに備えて日本語の練習(日本語学習にて)



「失礼します」, ホームステイの練習(日本語学習にて)

分野別都内プログラム



元気な小学生と仲良くなりました。



幼稚園訪問



消防体験もしました。



日本の本に興味津々



日本の学校制度についての説明を受ける青年



小学校のコンピューター室を見学

合宿セミナー



心をひとつにして



踊りも楽しい思い出



白熱したゲーム大会



敵に言葉の壁はありません

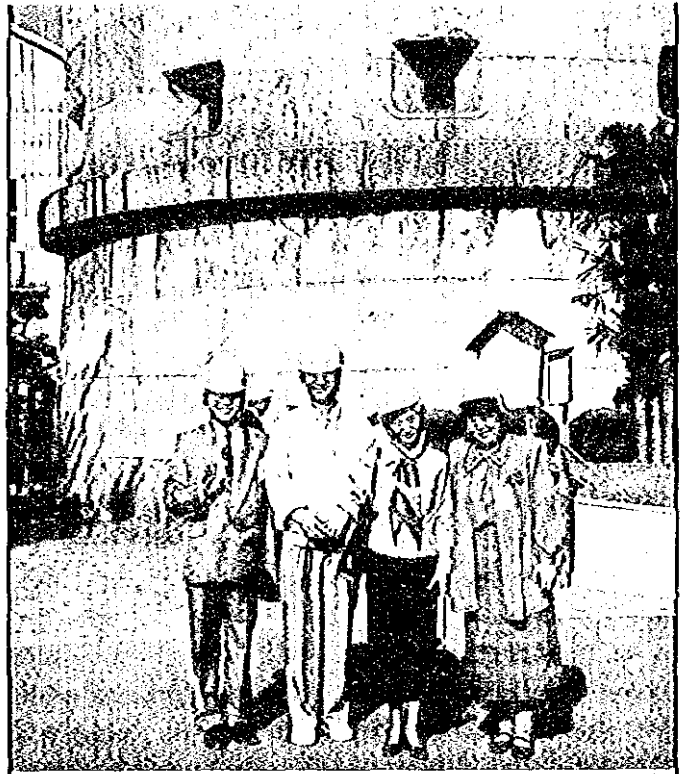


仲間の発表に聞きいる青年

分野別地方プログラム



小さな交流



神戸造船所にて



楽しい思い出を伝えたい(徳山郵便局にて)



日本文化体験



コンピューター授業の参観

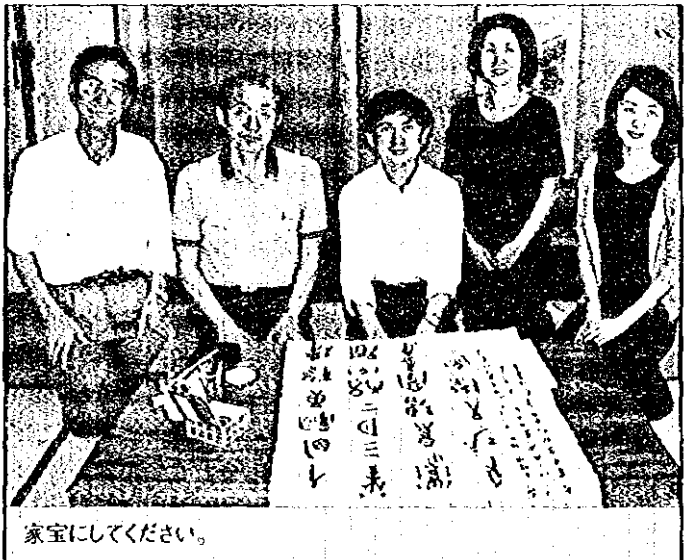
ホームステイ



どうぞよろしく(ホストファミリーとの対面)



いってきます。



家宝にしてください。

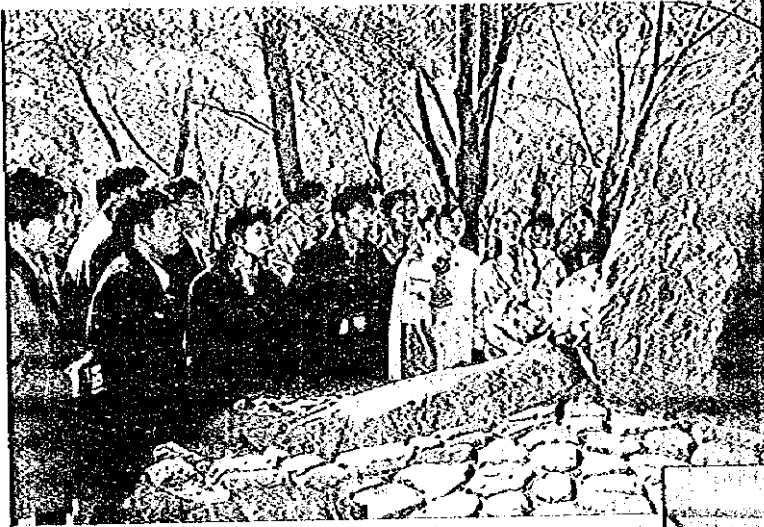


本場の餃子の味を伝授



すっかり打ち解けました。

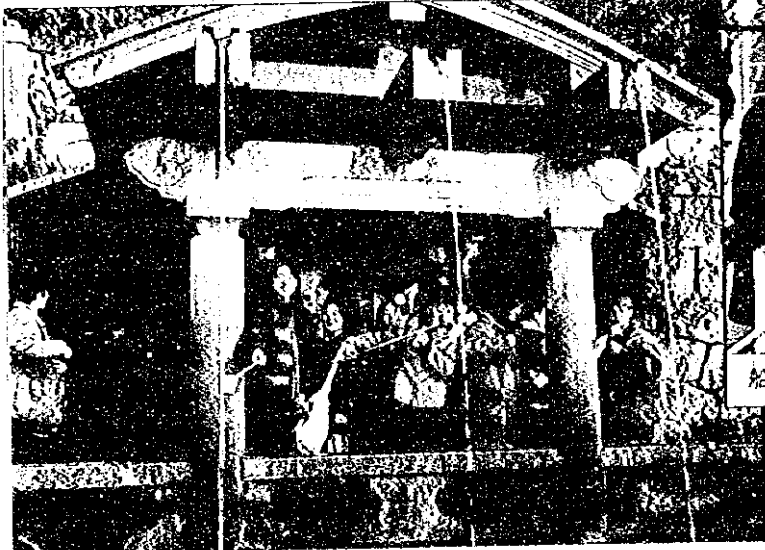
見学旅行



周恩来総理記念碑に献花(京都・嵐山)



船上での記念撮影

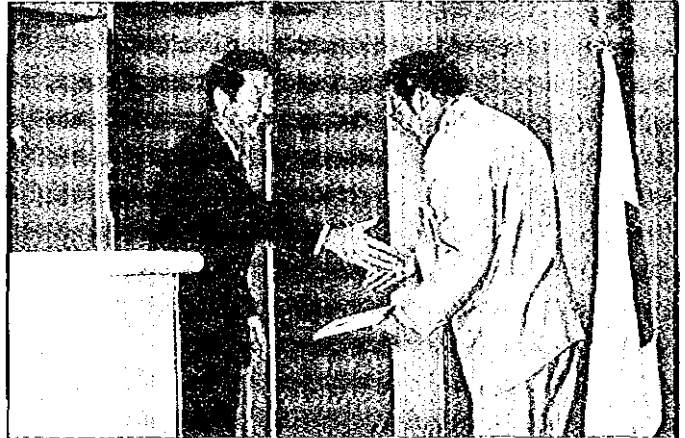


願いをこめて(清水寺にて)



友禅染め体験

歓送会



国際協力事業団から参加証の授与



楽しいひとときを記念して



みんなでそろって合唱

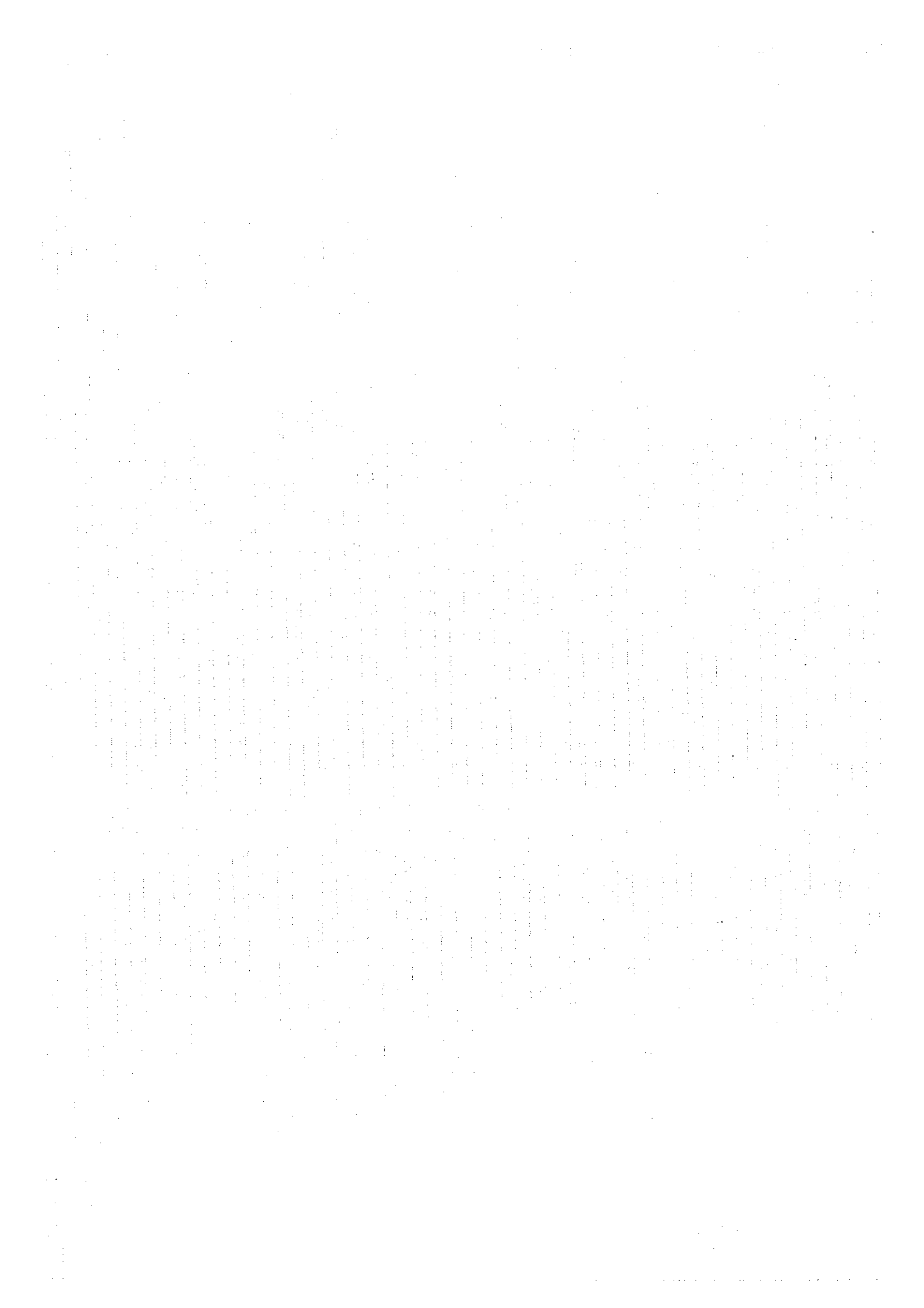


思い出にもう一枚



たくさんの思いを込めて

青年招へい事業



はじめに

「青年招へい事業」は、国際協力事業団（JICA）が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環として、アセアンをはじめ、アジア、太平洋、アフリカ諸国などから、将来の国造りを担う青年を、専門分野別に1カ月間招へいし、それぞれの分野について学ぶとともに、ホームステイ受入家族などとの幅広い交流を通じて相互理解を深め、信頼と友情を築くことを目的としています。

昭和59年度より平成7年度までの12年間で、日本を訪問したアジア・太平洋・アフリカ諸国の青年は13,454名に達しました。招へい国は当初アセアン6カ国でしたが、現在では太平洋諸国・地域、ミャンマー、中国、韓国、南西アジア諸国、モンゴル、アフリカ諸国、およびカンボディア、ラオス、ヴィエトナムのインドシナ3国が加わり大きな広がりをもってまいりました。

そして本事業開始以来13年目を迎えた平成8年度も、1,555名の青年の受け入れを無事終了することができました。これはひとえに、関係各方面の皆様のご協力と温かいご支援によるものと、心からお礼申し上げます。

本報告書は、招へい青年、合宿セミナーに参加した日本青年およびホームステイを引き受けていただいた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の1カ月の滞在記録をとりまとめたものです。本報告書が本事業のさらなる発展の指針となり、また皆様の良き思い出の一助となれば幸いです。

なお、本報告書は今年度の全招へい青年および各国の関係者にも送付させていただきます。

最後となりましたが、心温まるご感想、ご意見をお寄せいただいた皆様ならびに関係者の方々に重ねて厚くお礼申し上げますとともに、「青年招へい事業」がさらに有意義な交流プログラムとなりますよう、今後ともご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

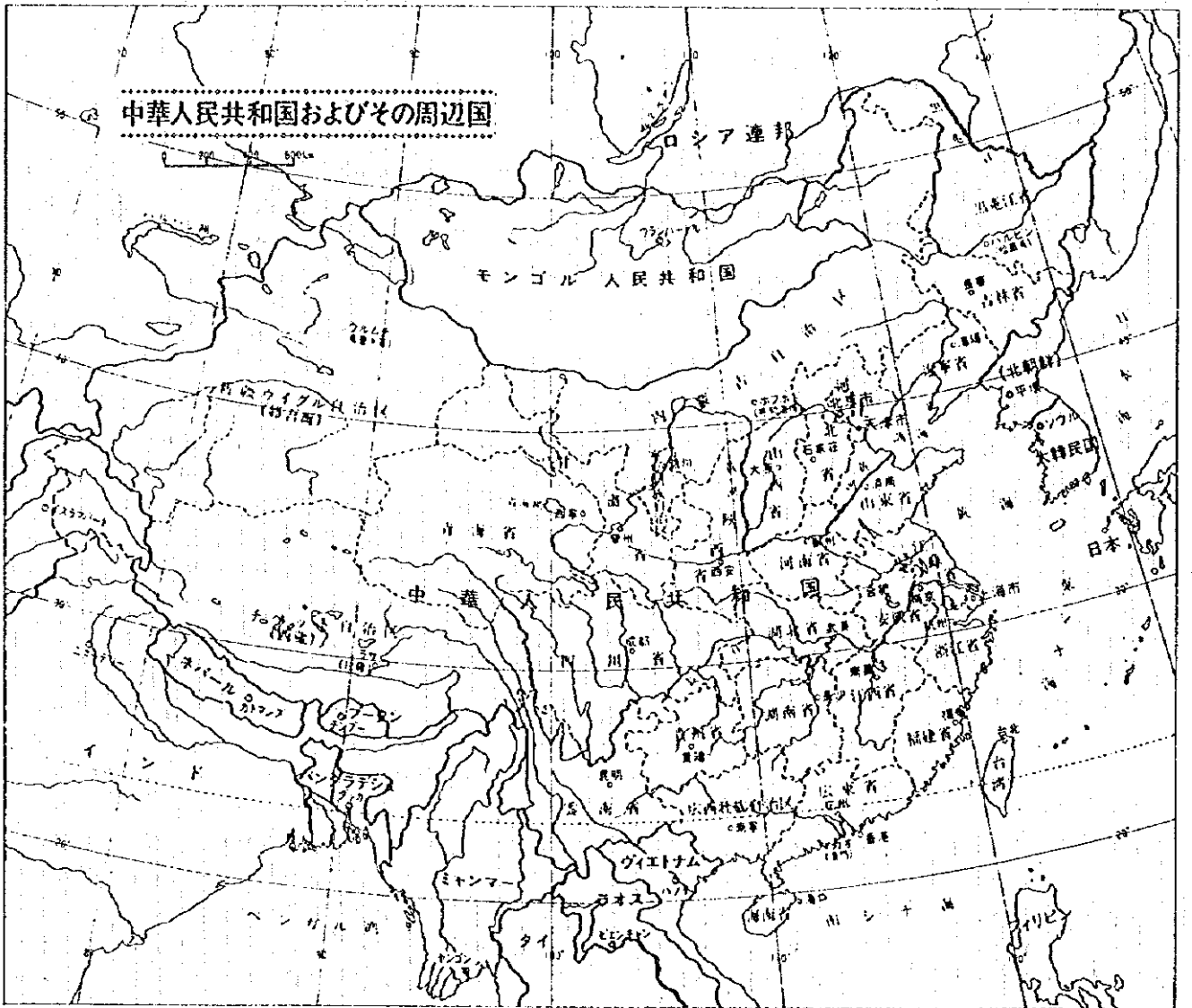
平成9年3月

国際協力事業団
研修事業部
部長 森本 勝

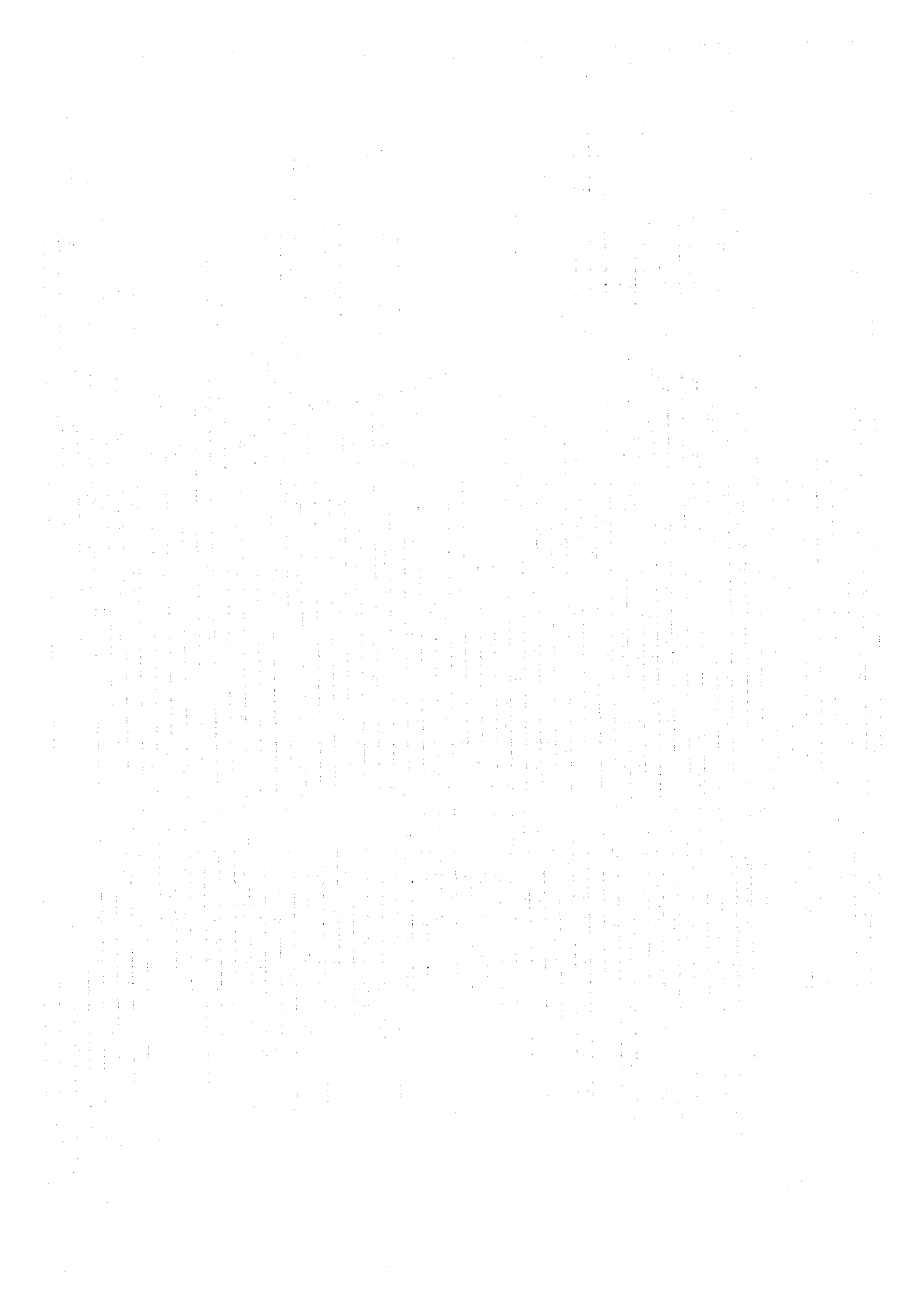
目 次

はじめに

1. 新日中青年の友情計画	
(1) 事業の概要	9
(2) 招へい実績	10
2. 招へい青年の印象	12
3. 合宿セミナー参加日本青年の声	17
4. ホストファミリーの思い出	20
1. 新中国実務者招へい計画	
(1) 事業の概要	25
(2) 招へい実績	26
2. 招へい青年の印象	28
3. 合宿セミナー参加日本青年の声	33
4. ホストファミリーの思い出	36
実績資料	
1. 実績一覧	
(1) 「新日中青年の友情計画」実績一覧	40
(2) 「新中国実務者招へい計画」実績一覧	41
2. 平成8年度青年招へい実績一覧	42
〈招へい青年名簿〉	45



新日中青年の友情計画



1. 新日中青年の友情計画

(1) 事業の概要

1) 事業の目的

「新日中青年の友情計画」は、日本と中国の青年の交流を通じ、21世紀に向けて、より良き未来と平和と繁栄を分かち合うために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

2) 実施方法

(a) 招へい人数

平成8年度は、100名を同時期に受け入れる。

(b) 招へい対象者

下記分野における指導的立場にある20～35歳の青年。

(i) 青年指導者 25名

青少年活動者及び関係者、スポーツ・文化・社会奉仕等団体関係者。

(ii) 経済青年 25名

企業等勤労者、公務員、ジャーナリスト。

(iii) 公務員 25名

他の分野に該当しない一般公務員。

(iv) 教員 25名

教育機関教員、教育関係公務員。

(c) 招へい期間および時期

10月2日から10月31日までの1カ月間。

3) プログラム概要

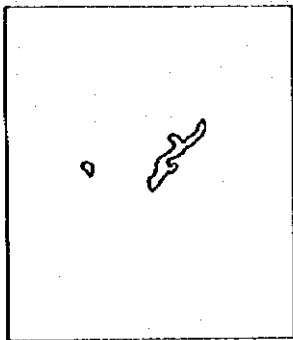
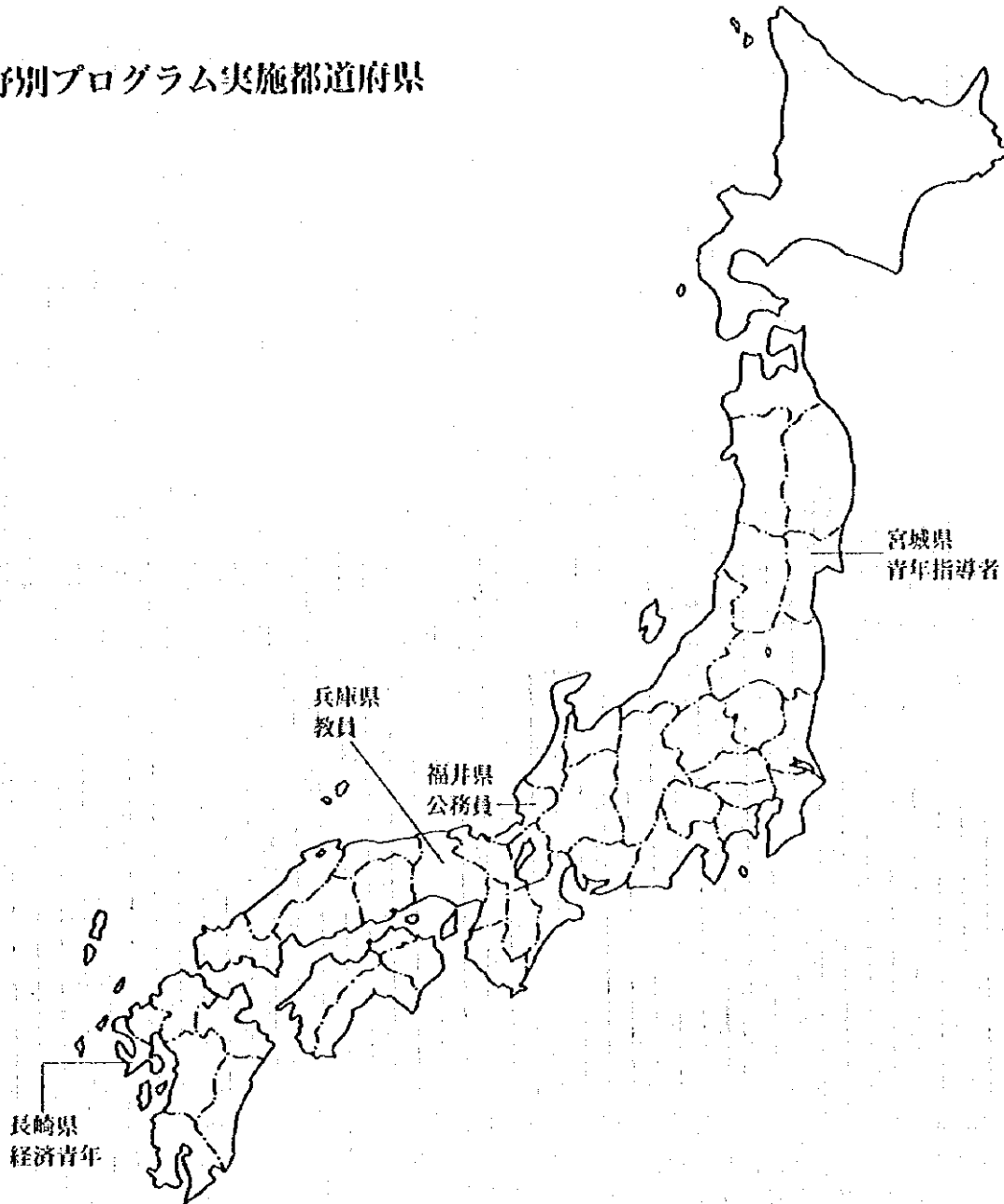
(数日間)	現地オリエンテーションプログラム	日本でのプログラムについての説明 日本語の日常会話の学習 渡航に係る説明等	
	来日	共通プログラム	日本の全体像について、正確な理解を促進するための文化、経済、歴史等の講義及び施設見学
(二カ月間)	分野別プログラム	都内 分野別プログラム	招へい分野の講義や関連施設の視察、研修
		合宿セミナープログラム	日本の同世代同分野の青年との意見交換、交流の場
		地方 分野別プログラム	招へい分野の講義や関連施設の視察、研修及び地方青年との交流等のプログラムの展開
		ホームステイプログラム	日本の家庭生活の体験
		見学旅行	日本の文化、伝統、歴史等を理解するための見学旅行
帰国	評価プログラム	全プログラムに関する評価会	

(2) 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県
青年指導者	25	日本ユースホステル協会	宮城
経済青年	25	日本経済青年協議会	長崎
公務員	25	ユースワーカー能力開発協会	福井
教員	25	日本国際協力センター	兵庫

* 共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

分野別プログラム実施都道府県



2. 招へい青年の印象

訪問の感想



薛怡卿
(青年指導者グループ)

秋は収穫の季節です。青年招へい事業の中国青年指導者視察団の一員として、日本を訪問できたことをとても光榮に思います。日本で日本語を学んだだけではなく、青少年のためのいろいろな施設を参観したり、日本青年と合宿したり、日本の一般家庭にホームステイしたり、また日本の名所旧跡を見学したり、日本の文化と生活を体験したりしました。いたるところで日本側の親切なもてなしを受けて、日本の人たちの中国青年に対する友愛の情を感じ取ることができました。

1カ月間の交流のなかで、私が一番多くのことを感じ、一番印象深かったのは合宿セミナーとホームステイです。3日間の合宿セミナーで、日本のさまざまな職業の青年と交流し、私は日本青年の学習、仕事、生活について知識が増えましたし、日本の発展した経済の様子についてもさらに理解を深めることができました。日本の青年が元気い

っぱいで、知識欲旺盛だったこともとても印象的です。

この1カ月に泣いたことがあります。それはホームシックからではなく、ホームステイの家族との別れのときです。私のホストは松本健二さんという公民館の館長で、余暇に宮城県ユース・ホステル協会の副会長もしていて忙しくて大変です。穏やかで、優しい方で、奥さん、3人の娘さんと松本さんの妹さんの6人家族が楽しく、和気あいあいとした雰囲気と一緒に暮らしておられます。松本さん一家のいたれりつくせりのお世話のおかげで、私は自分の母親の元に戻ったような気持ちになりました。わずか3日のホームステイの間、ほとんど手まねと表情で気持ちを伝えようとしてきました。それによりかえって本当の心と心の交流ができたと思います。別れのとき、お互いに心から別れがたい気持ちがわきおこり、思わず感激の涙を流し合いました。ホームステイ中のこまごまとした出来事から、もともともっていた日本の男性に対する考え方も変わりました。これまでは、日本の男性は必死で仕事をし、仕事が終わると酒を飲み、タバコを吸い、いつもカラオケに行って、ほとんど家事をしない。このことは結婚しても同じで、決して奥さんの家事を手伝うことはないと思っていました。

しかし、松本さんは全く違っていました。家族のみんながこの異国から来た客人である私をもてなすのに忙しいとき、松本さんはエプロンをして、野菜を洗ったり、食器を並べたりして家事を手伝うのでした。10月20日、選挙の日の朝、私や奥さ

んが起きたとき、すでに松本さんは6時に起きて自分で朝食をすませると、選挙管理と立ち会いに出かけたことを知りました。松本さんは夜7時になってやっと帰って来ましたが、私たちはそのときにはもう夕食を終えていました。日本にも仕事に一生懸命なだけでなく、家でも模範的な夫である松本さんのような男性がきっとたくさんいることでしょう。

日本での旅で私は涙を流したばかりか、それ以上に感動しました。一生涯忘れることはないでしょう。より多くの青年がこの活動に参加し、日本を理解してほしいと心から望みます。また、より多くの日本の青年が中国を訪れ、中国を理解してほしいと思います。両国国民の友情の新しいページをきりひらくために、両国青年が末長い友好をめざして責任を立派に担っていくことを心から期待します。

ホームステイ

彭 慧
(経済青年グループ)



自動車がホストファミリーの家に向かっているとき、心の中にかすかな不安が潜んでいた。これから見知らぬ家庭で3日間も過ごさなければならない。言葉が通じないために、コミュニケーションをとるのが難しく、時間的にちょっと長すぎるのではないかと思った。ところが、受入団体が心を尽くしてホストファミリーを選んでくれたことや、中日両国は海を一つ隔てた隣国であり、長い交流の歴史があるので、話し言葉が通じなくても、

文字は共通していることに思いが及ぶと、自分の真心、情熱と愛情をよりどころにすれば、きっと友情の花を咲かせることができると思い直し、やっと自信がもてるようになった。

私は心からの微笑みをもってホストファミリーの門をくぐった。ご主人の秋月清己氏は長崎県東彼杵町の税務課長だが、書道を心から愛し、壁には彼の力強い作品が飾られている。奥さんの憲子さんは家事のほかに、茶道と華道に精通している。うえに、和紙貼り絵の達人でもあって、机の上には彼女の自信作が置かれていた。娘の祐子さんはアジア銀行に勤務していて善良にしてやさしく、小動物を特に寵愛している。“ゴンタ”という犬を飼っているほか、寝室には百種類もの可愛らしい、いろいろなぬいぐるみのおもちゃが飾られている。

芸術一家とってよく、東洋的、西洋的、伝統的、現代的な各種各様な美術品の逸品が入り乱れているようでいて、趣があり、家中が濃厚な芸術的雰囲気には満ち溢れていた。ところで、一方では、先端的な家庭用品は経済的豊かさをも示している。ここでは、木造家屋、神棚、畳、障子が伝統的で古めかしい情緒をかもしだしているが、電子レンジやオーブントースターは現代的な雰囲気を出している。この家庭において、伝統的文明・文化が現代的文明・文化と出合っているが、あまりにも調和がとれているので、驚嘆するばかりである。この家庭からも日本の民衆が人類の精神文明と物質文明を創造し、享受しているのを見いだすことができる。

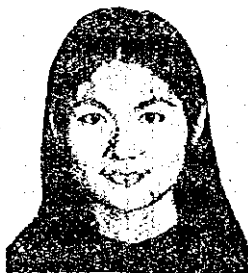
秋月氏はあいにくアメリカへ出張していたが、奥さんと娘さんが情熱的に私を接待してくれた。奥さんは毎日時間をかけて、おいしい日本料理を作り、私の身の回りを世話してくれ、母親みたいに私を気にかけてくれた。祐子さんは苦勞を厭わずにドライブして、山々を越えながら、私を遊びに連れて行ってくれた。私は日本料理のおいしさを堪能したばかりでなく、日本の山河の秀麗さも

味わい、日本の人々の情の深さを感じ取ることができたのである。言葉こそ通じなかったが、筆談で交流し、数十枚もの紙を使った。筆を一本、インクが尽きるまで書くと、私たち全員から心からの笑いがこぼれた。この3日間は長すぎるものではなく短すぎたと、私は心底思ったのである。

ホストファミリーの優しいお母さん、可愛い妹さんを私は永遠に忘れない。秋月氏には残念ながら会えなかったが、今後必ず会うチャンスが訪れるものと信じている。JICAのご尽力に感謝し、中日両国人民の友情の木が朽ちぬことを心から祈願する次第である。

新世紀の鐘の音に耳をすまそう

董宏君
(公務員グループ)



山々は紅葉し、実り豊かな季節に私たちは忘れがたい美しき日本の旅を終えた。この収穫の季節、私たちは友情の実を手にしただけでなく、今まさに21世紀への希望の種を蒔いている。

半世紀余り前、周恩来首相は京都に来て、この地で新しい思想に触れた。今日、嵐山を訪れて中日友好を記念して建てられた“雨中嵐山”の詩碑の前に立ったとき、当時周首相が「日のひかり雲間よりさしていよいよなまめかし」と詠んだ気持ちを私たちも感じ、ここでも、世代代にわたって友好を続けていこうとする中日両国人民の心の声を私たちは聞いた。

1カ月にわたり、私たちは東京、京都、武生、大阪、広島などの地を訪れ、日本の政治や経済、

文化、民俗などを広く理解することができた。特に日本青年やホームステイ家庭との交流は、両国人民の一衣帯水の深い友情と、はるか昔より続く文化の源流を感じさせるものであった。

青年は世界の未来であり、希望である。21世紀の「平和、友情、発展」という重責を担う中日両国青年は、新世紀の世界の発展と人類が直面しているさまざまな問題に対して共に力を合わせて立ち向かわねばならない。日本は今、急速に国際化が進んでおり、改革解放後の中国もまた、世界に向かって日進月歩で歩んでいる。中日両国はアジアの発展と繁栄のために、また世界の発展と繁栄のために積極的に努力をしている。青年として、私たちは新世紀の世界の挑戦を受ける勇気と度量をもち、また、未来の世界のさまざまな課題を解決していく力ももっている。

広島緑あふれる平和公園をのんびりと散歩し、鳩と戯れる子供を眺めているときも、私の頭の中には平和記念資料館で見た1945年8月6日午前8時15分に砕かれたまま残されている腕時計と、半世紀前の旧中国の画面が、重く映し出されていた。平和と友情は全世界人民の望みである。あの当時のまま固められた時間は、声なき警告だと私は思う。全世界の平和と生命を熱愛する人々のために、私たちはこの重い教訓を後々まで心にとめ、残していこう。21世紀の鐘の音の響く今、この平和と友情の音に、私たちは静かに耳をすまそう。

中国と日本—相互学習の新時代の開拓

樊和平

(教員グループ)



1カ月の視察が終了し、感じ取り、学び取り、思い至ったことは多いが、それを一言で表すとすればそれは、中国と日本は、相互学習の新時代を切り開いていかねばならないということであろう。

日本に一步足を踏み入ると、出国前に抱いていた異国を訪れる不安は、一瞬にして消え去った。身体的特徴から文字に至るまでの類似点は私たちに、故郷に帰ったような安堵感を与えたのである。視察が進むにつれ、私たちは日本に、文化原理、社会構造に伝統的な同一の源流を見いだすようになった。日本の友人は謙遜し、また、客観的姿勢を失わずに、「歴史上、中国は日本の師である」と述べた。そうなのである。日本で私たちは現在の中国よりもさらに「中国らしい」文化の伝統を見いだすことができたのである。

時は流れ、今や日本がNo.1の時代となった。日本は経済的には最も強大な国家となり、世界の経済の潮流を左右するようになったが、中国は「開発途上国」となった。中国が日本に学ぶ時代が到来したのである。私たちは、かつて日本が中国に学んだように真摯に日本に学ぶべきであり、また私たちが日本に学ぶことは、不可欠であり、適切なことである。私たちは正にこのような必要性から日本を訪れたのであった。

しかし、歴史は絶対にこのように容易に循環するものではない。21世紀は中日が相互学習の新時

代を共に歩まなくてはならないのである。日本経済の成功の根本は、その特殊な民族的精神と性格にあり。この1カ月の視察において私たちは日本人の優秀な精神と品格、そして性格の特徴を発見し、身近に体験した。では日本民族の精神の真髄とは何であろうか。私はそれは学習に長けていることであると思う。日本民族の性格の根本的特徴とは何であろうか。私の結論は「真摯さ」と「きめ細かさ」ということである。学習に長けていることは現代日本に輝かしい成功をもたらした。明治維新以降、日本民族は絶え間なく当時の最も進んだ文化を学び続け、創造的にさまざまな文化を調和させ、融合させた。私の著書『儒教と日本のスタイル』のなかで示したように、日本の歴史と現代の発展は3つの大きな段階を経ている。まず最初が「和魂漢才」の段階であり、中国文化、とりわけ儒家の倫理政治と、大和民族の精神の融合である。次が「和魂洋才」の段階であり、西洋の科学精神を学び日本文化と調和させた。そして「士魂商才」の段階では、伝統的文化精神と現代経済運営を結合させ、「論語」に算盤を加えた現代の経営スタイルと精神構造を作り上げたのである。このような学習に長けている精神を、私たちはいたるところで感じ取ることができた。ホームステイ先の主婦が流暢な英語を操っていたり、街のなかで英語で道を尋ねても、英語を解さない日本人にはほとんど会わなかったことなどは、国際的都市の民族の資質を感じさせ、私たちのような大学教授の視野を大きく広げさせたのである。「真摯」で「きめ細か」な民族的性格はかつての「生徒」を、全国的に、いかなる「先生」よりも優れた存在にした。工業製品の完全無欠さのみでなく、精神文化の貫徹と表現もまた深く掘り下げられている。このような性格は日本側スタッフの方々からも見て取ることができた。1カ月にも及ぶ緻密なプログラムのなかで、いかなる失敗も、食い違いも生じることがなかったのは、仕事に取り組む

真摯な態度と、きめ細かな性格によるものであり、私たちが敬服するところである。これこそ正に、日本が成功をおさめ得た最も大きな要因であろう。

もちろん、今日の日本がすでに非の打ちどころがないというわけではなく、むしろ「No.1」の地位を維持し、更なる発展を求めするために、多くの難題にぶつかっていると見えるだろう。日本の文化は複合体であり、矛盾体でもある。つまり東西の文化が融合し、なおかつ衝突しているのである。日本のここ50年の発展は、相当の部分が特殊な背景の下での「爆発力」の具体的表れであり、いかにして世紀を跨いで発展を継続させていく人的推進力を探索するかが、厳しい課題であろう。この方面において中国の実践は日本に再び参考となるべき方法を提供することができる。悠久の歴史を有する文化、伝統は言うまでもなく、更に重要なものはここ1世紀半の間に3度にわたり、大きな社会の転換（近代—現代—現代化）が行われたということである。50年に一度の社会転換の発展速度は世界民族のなかでも、稀に見るものである。

このような意味において、21世紀は中国と日本の相互学習の時代であるべきなのである。

この潮流の発展を推進させるために、JICAの交流事業をより深く発展させていくべきであり、一般的な「状況を知る」レベルから「問題を詳しく討議する」レベルまで高めていかねばならないのである。そして、交流のレベルを高めるにあたって、交流に参加する青年のレベル、特に日本側青年のレベルを上げることにより、より深い交流を行うことができると考える。また、一般の交流と同時に、関連の専門家を招へいし、比較的長い期間（半年、1年、2年）を設け専門的に研究する内容のプログラムを別に準備することも非常に有益であると思う。

中日両国は、共に東洋社会に属し、共通の文化の根源を有している。東洋の問題は結局のところ、東洋人にしか解決できないであろう。中日両国の青年は手と手を取り合い、両国の、世紀を跨ぐ発展に対する共通の課題を解決するために、貢献していくべきなのである。

3. 合宿セミナー参加日本青年の声

Short Vacation — 3日間の思い出

星野 宏和
(公務員)

振り返ればわずか3日間でしたが、多くのことが思い出される実り多い3日間でした。

1日目。顔合わせ。緊張と不安と期待と好奇心が交錯していた初日。同じ部屋の人と会話を試みるが、自分の語学力の乏しさを改めて実感した夜。

2日目。分科会という名の討論会。私のいた班は、教育がテーマ。いじめ問題と一人っ子政策における問題について、日中相互に意見を出し合う。いじめ問題については、中国側から中国での子供との接し方を詳細に話してもらい、中国の子供に対する期待の大きさに、日本側はみんな驚きました。一人っ子問題に関して、中国側から逆境に弱い子供たちが増えていることを憂い、それに対し日本側からいろいろな教育方針を実際教育の現場で働いている方々から提示していただきました。私自身、一児の父で、今後の子供の教育に関し、たいへん勉強になりました。

夜の交流の夕べは、歌と踊りと笑いに満ちたパーティー。日中みんなで踊った松島節。そしてみんな真剣だった伝言ゲームなど、忘れられない思い出です。

3日目、スポーツ交流。ドッジボールとバレーボールと卓球。どれも白熱した試合内容で、すべて見応えのある一戦でした。最後に行った中国のラジオ体操も思い出のひとつ。日本とは全く違う体操内容に、日本側は皆、目を白黒させていました。

こんな素晴らしい3日間を与えてくれた日本ユースホステル協会と日中の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。謝謝！

合宿セミナーを終えて

熊谷 芳子
(公務員)

以前にこのような国際交流プログラムに参加した経験のなかった私は、中国青年とどうコミュニケーションを図っていいのか、かなりの不安ととまどいを抱えて当日を迎えました。

この合宿セミナーを通して私が強く感じ驚いたのは、中国青年が非常にパワフルであったことです。姿勢がよく、大声で笑い、歌い、自信に溢れた堂々とした態度は、私に萎縮よりも安堵感を与えました。

3日間の日程のなかで印象に残ったもののひとつは、1日目の夜の交流パーティーでした。料理を囲んでの談笑、写真撮影、アルコール56度の酒を両手に持って「乾杯！ 乾杯！」と迫りくる乾杯攻撃に、喉も顔も真っ赤にした日本青年。とりわけ感動的だったのは、両国が披露した歌や踊り

でした。言葉も社会的背景も異なる隣国土の国が、ひとつでも共有している文化の一片を探し出し、一緒に歌い、踊る。その一体感を味わうことができたのは素晴らしい体験でした。

また2日目の分科会では、若き企業のリーダーとして国の期待と責任を背負った中国青年の、自国の発展に対する真摯な態度に、私たち日本青年も背筋が伸びる思いでした。やはり素通りの旅行やマスコミの報道からは吸収しきれない等身大の中国を見ることができ、私たちも社会における自分の役割や責任を改めて見直さざるを得ませんでした。

全体を通して、ホスト、ホステスとしての日本青年の努力は、友好的な中国青年の協力によって報いられたと思います。2泊3日の短い期間のなかで中国青年と共有した経験は、国際交流の楽しさ、大切さを十分に実感させてくれた、非常に有意義なものでした。

緑濃き、友情深き、明日の空

小越 健二
(公務員)

中国の方がどのようなものの考え方をしているのかが知りたくて、今回の中国青年との合宿セミナーに参加しました。

初日、「同じ漢字を使う国の人だし、何とか話もできるだろう」と楽観的に考えてバスに乗り込みました。いざ話してみると、中国語の発音の難しさに舌を巻いてしまいました。「ニイハオ」「シェイシェ」「ウォシージエエン」程度は通じているみたいなのですが、それ以外の単語についてはどうも私の発音が悪いらしく、中国の方が首をかしげてしまいました。

それでも中国の方は私の目を見て一生懸命になって聞き、一緒になって丁寧に発音してください

ました。私はそのような親身になって人に接する姿勢に感心してしまいました。その半面、レクリエーションではとても陽気で明るく、スタッフの方と一緒にみんなで楽しい時を過ごしました。

2日目、テーマ発表では、中国の方の日常生活について知ることができました。中国の方はとても家庭を大切にしている、私も見習いたいと思いました。グループ別討論では、日中の公務員制度についてさまざまな議論が飛び交いました。

最終日、なんだか、私は中国の方と古くからの友人であるような錯覚にとられるほど仲良くなっていました。そして別れるのがとてもつらくて仕方ありませんでした。

けれども、もう間もなく迫っている21世紀を明るい世界にするために、共に頑張っていけると考えると、なんだか楽しみです。

世界は狭いね

金子 悟
(教員)

今年の8月、私は中国に行ってきた。今回は3年前の合宿セミナー以来ずっと文通をしている友人と再会するための旅行だった。

9月に入り、JICEから中国教員との合宿セミナー参加の打診があり、私は二つ返事で引き受け、その日を心待ちにしていた。

合宿セミナーの初日、バレーボールの試合が行われた。私たちのチームは、張さんという頼もしいエースがいてくれたおかげで、決勝まで駒を進めることができた。試合後、入浴を済ませ部屋に戻るとすぐに卓を囲んで会話が始まった。同室の3人に、中国旅行の写真を見せていると、上海出身の朱さんが一枚の写真を取り上げて、

「ああ、この人知ってるよ。謝咏さんだ」と言った。



何という偶然だろう。先日3年ぶりに再会した友人の知り合いが同室者だったとは。

「世界は狭いね」。こう語りかける朱さんは、私

にとって旧知の友であるように思えた。そして、私たちの間を隔てるものは何もなく、同じひとつの世界に共に生きていることを実感した。

2泊3日は、お互いをすべて知り合うには短すぎる。しかし、樊さんの言うように、私たちの友情はこの合宿セミナーをきっかけとして始まったばかりだ。中国での再会を固く約束し、私たちは別れた。この約束が実現するとき、世界を狭くしていくものは、ほかならぬ私たちの友情であることを改めて実感することになるだろう。

樊さん、朱さん、張さん。南京、上海、そして北京でまた会いましょう。

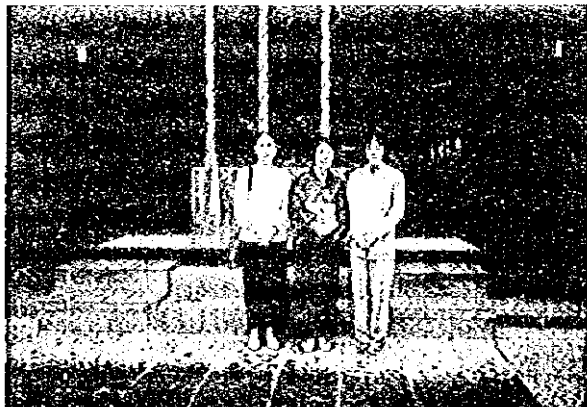
4. ホストファミリーの思い出

ホームステイを引き受けて

清水 公子
(宮城県)

和服を着たいという希望で、慣れない正座で、茶の場を楽しんでいただきました。築70年近い古い純和風の家を清潔、美麗と喜んで、この家の生活は滞日中で一番心が落ち着いたと、わが家をMy home、わが家族をMy family、と呼び、親しみあふれる笑顔をふりまいてくれた李冬梅さん。あっという間に過ぎてしまった3日間でしたが、彼女は私たち家族に温かな思い出をたくさん残してくれました。

英語の上手な彼女は、娘とは英語で、英語の苦手な私とは漢字と英語まじりで話がはずみ——私の日本語的英語と彼女の中国的英語が通じ合うま



では、多少の時間がかかりましたが——ついには、青年指導者のメンバーと私の会話を彼女が英語で通訳してくれるまでになってしまいました。

ホテルに戻り、青年指導者の同志と顔を合わすや、ふっと口から出てしまった英語！

離れていたのに、何を話したかは聞き取れなかったが、確かに李冬梅さんの口からは、私と話していたそのままに、なめらかな英語が流れていました。驚いて聞き返す同志。ちよっぴり照れながら、あわてて母国語で言い直していた彼女。いつのまにか頭の中が英語で回転していたのですね。

1996年2月のアフターケアプログラムで10日間の北京訪問を経験させていただき、また今回は、北京在住の冬梅さんのホームステイを受け入れて、私たち家族には、北京が、中国が、またまた近くになりました。

中日友好永遠に

小玉 昭子
(福井県)

50坪ほどの家に、中学1年の長女を頭に4人の子供、義母、夫に私、そして犬1匹。こんな窮屈な家に外国の方をお泊めするとは、ちょっと前まで考えもしなかったことです。まして72歳の義母にとっては、大変なことで、私が提案してからというもの、毎日のように「どうしよう、どうしよう」の連発。「なるようにしかならないんだから、あんまり心配しないで」という私も、「義母に



大変なことを押しつけてしまった」と責任を感じていました。

そして、ついに中国青年、唐さんに来ていただいた日、義母の緊張が突然安堵に変わりました。地理的に近いのに、とても遠い国のような気がしていた中国の人が、急に親戚のような気になってしまったのです。それは中国という日本にとっては母なる大地から来られた人ということと、見るからに真摯でやさしい人柄で私たちをほっとさせてくれたからです。

2日間のホームステイでは、夫が「ぜひ」とパチンコにお連れし、田舎の山へ農作業姿で松茸狩と称して登山、養殖場でニジマス釣り、夜には、日本食を食べてもらおうと手巻きさしや赤飯を用意、翌日は、小学校の音楽会を見に行き、たまたまあった国政選挙の投票をちょっと見学、最後に菊人形見物と、行事ばかりでした。彼は、とても疲れたと思うのですが、終始明るく真摯で気軽に一緒に行動していただけました。夜には子供たちとゲームをしたり、中国トランプを教えてもらったりと、楽しく遊んでいただきました。

私の片言の英語以外、全く言葉は通じない人でしたが帰る前ぐらいには、特に子供たちとなんとなくコミュニケーションがとれるようになり「もう少し日があればなあ」と思いました。そして私たち家族は、この経験から、彼が最後まで言っていた「中日友好」ということを、心から支持して

いきたいと思ったのです。

唐さん、2日間の海外旅行をありがとう。素晴らしい親孝行と子供の教育ができました。

在宅世界旅行の楽しさ

井上 祐崇
(兵庫県)

外国の景色の美しさの中に身を置く旅行。また、行きずりの街角で、見知らぬ人との情緒を楽しむことも旅の醍醐味であろう。そんな人と人との心の絆を、旅費もかけず、手軽に味わえるのが、なんと言ってもホームステイのホストである。そのうえ、チョッピリ良いことをして、少しでも親善に貢献したと思う自己満足が心をくすぐる。今回は青海省からチベット音楽の響きが聞こえてきそうな名前の持ち主、李加曲さんのホストになった。その朗々とした歌声からは、チベットの春の草の香りを想像するのに十分である。もう一人包俊直氏は常夏の海南島に住む、中国新進気鋭の書道家である。職業柄、一見頑固そうに見えた彼であったが、興に乗ると家族一人一人に詩を贈り書道の腕を奮った。初めて訪れた神戸の街にその足跡を残そうとする情熱が、私たちにまでひしひしと伝わってくる。「きっと息子の代にはわが家の家宝になるように」と言うと、ニヤリと自信ありげに笑った。この2人、同じ中国に住みながら、かなり離れた所に住む間柄、2人が郷里のことを話し合っているなかへ、私も筆談で参加する。日ごろ英語では子供たちに大きく後れをとっている中年族の我輩。漢字文化圏に住むこの便利さ。

「マンガ世代の新人類にこの充実感が分かるか！」

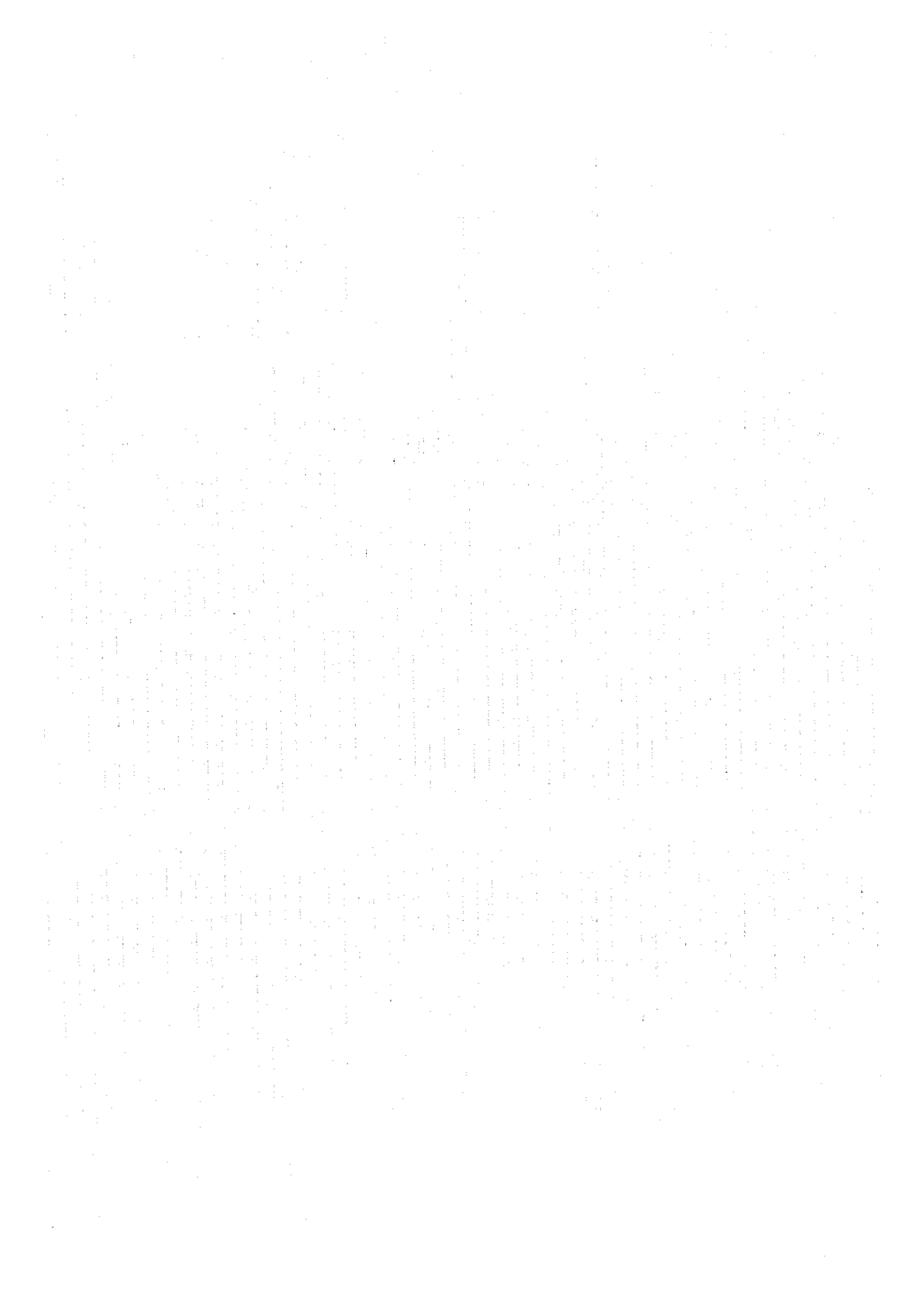
改めて中国領土の広大さ、人種の多様さを実感する。

日本は世界中の人々に、物質だけを与えるのではなく、心の豊かさとともに喜びあえる機会を一

つでも多く、創造することが、「世界に尊敬される日本人」となるのではないだろうか。学びて時に

これを習う。友あり遠方より来る、また楽しからずや。万感。

新中国実務者招へい計画



1. 新中国実務者招へい計画

(1) 事業の概要

1) 事業の目的

「新中国実務者招へい計画」は、日本と中国の実務者の交流を通じ、中国の近代化建設を支援するとともに、21世紀に向けて、より良き日中の協力関係を構築するために、相互理解と信頼を培うことを目的とする。

2) 実施方法

(a) 招へい人数

平成8年度は、100名を同時期に受け入れる。

(b) 招へい対象者

下記分野における指導的立場にある20～35歳の青年

(i) 産業基盤整備 25名

地方政府関係者、地方の環境対策関係者等。

(ii) 経済開発 25名

経済関係者、貿易実務者等

(iii) 地域振興 25名

省・自治区政府の農業関係者、地方政府の地域開発関係者（インフラ整備または経済・貿易関係者）、郷鎮企業関係者等。

(iv) 人材育成 25名

文化振興関係者、人材育成関係者等。

(c) 招へい期間および時期

11月13日から12月12日までの1カ月間。

3) プログラム概要

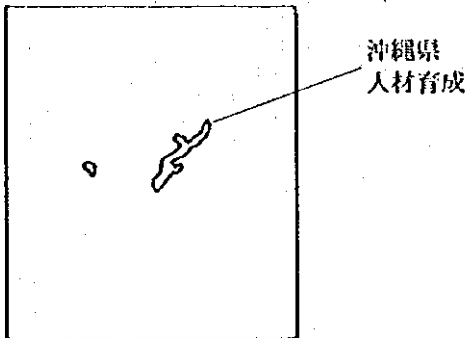
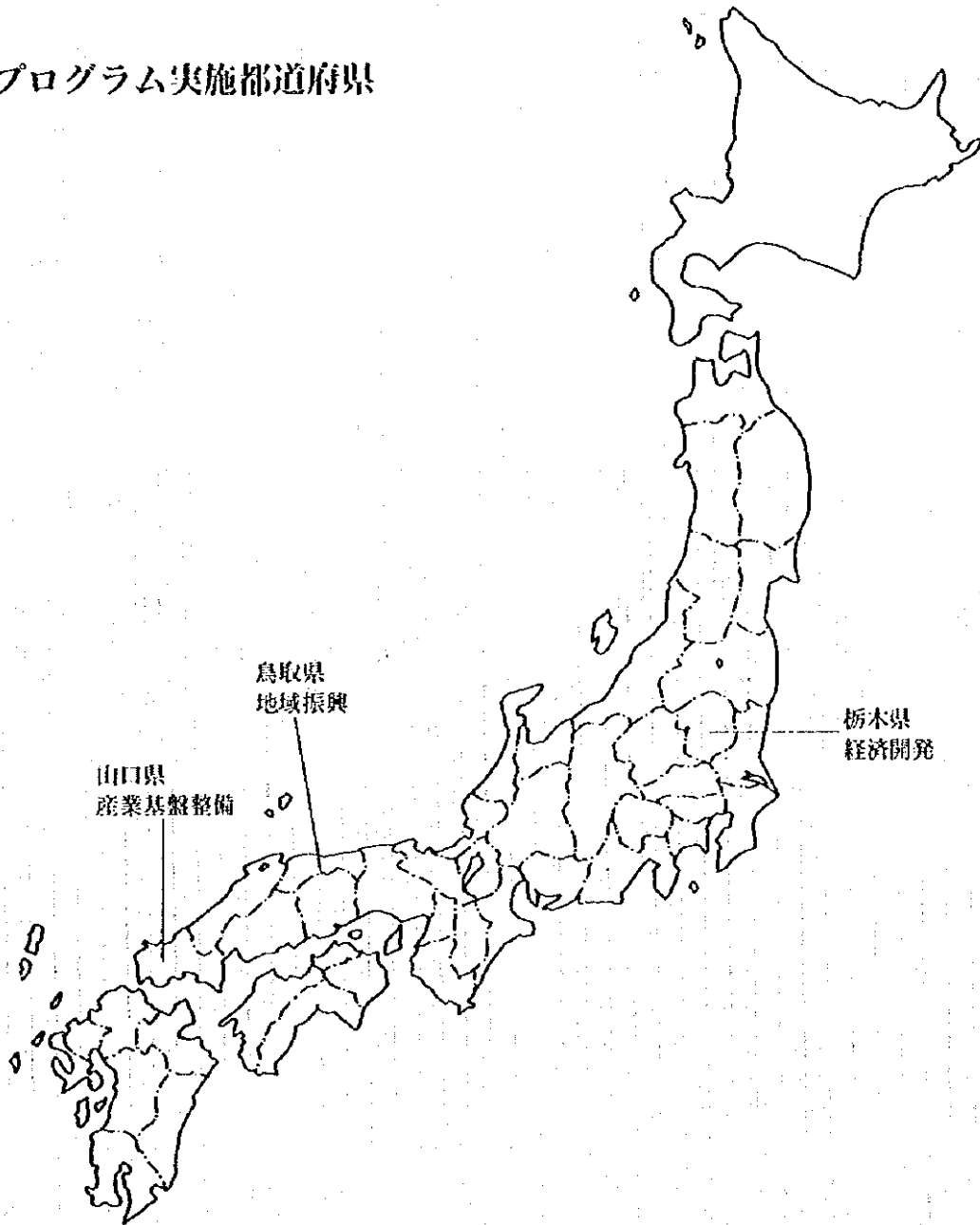
(数日間)	現地オリエンテーションプログラム	日本でのプログラムについての説明 日本語の日常会話の学習 渡航に係る説明等	
	来日	共通プログラム	日本の全体像について、正確な理解を促進するための文化、経済、歴史等の講義及び施設見学
(二カ月間)	分野別プログラム	都内 分野別プログラム	招へい分野の講義や関連施設の視察、研修
		合宿セミナープログラム	日本の同世代同分野の青年との意見交換、交流の場
		地方 分野別プログラム	招へい分野の講義や関連施設の視察、研修及び地方青年との交流等のプログラムの展開
		ホームステイプログラム	日本の家庭生活の体験
		見学旅行	日本の文化、伝統、歴史等を理解するための見学旅行
帰国	評価プログラム	全プログラムに関する評価会	

(2) 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県
産業基盤整備	25	世界青少年交流協会	山口
経済開発	25	勤労厚生協会	栃木
地域振興	25	日本国際協力センター	鳥取
人材育成	25	青年海外協力協会	沖縄

*共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

分野別プログラム実施都道府県



2. 招へい青年の印象

産業基盤整備グループ全員の感想

李紀炎

(産業基盤整備グループ)



1カ月にわたった交流プログラムも、緊張のなかにも愉快的気分のうちに間もなく終了しようとしている。この1カ月、私たちは日本社会のさまざまな面に触れ、それぞれの場所で深い印象と、多くの収穫を得た。また同時に、日本の受入側のプログラミングに、あまり十分とは言えない部分のあったことが、残念でもあった。それでも、交流活動は必要だと私たちは考えている。それは、私たちが日本を知ると同時に、より多くの日本人に中国を知ってもらえたからである。

今回の訪日交流での収穫は、2つの面に大きく分けられると思う。ひとつは民間交流である。日本の人々との交流を通じて感じた、中国人に対する友情と、日本人の職業意識の高さといった面である。もうひとつは、専門分野の交流や見学、講義を通じて、現在の日本の産業基盤整備や管理面について、その構想や管理方法などの多くの認識

を得られたことである。

民間交流を通して、日本人は本当に非常に親切で友好的だと感じた。このことは、私たち25人とも、ホームステイ家庭において最も強く実感した。ホストファミリーのなかには、私たちの来日の半年も前から中国語を自分で勉強してくれていた方もあり、多くのホストファミリーが、私たちが徳山市に到着したとき、駅のホームで五星紅旗を振りながら中国語で私たちの到着を歓迎してくれた。また、自分の友人や親戚を呼んで歓迎会を開いてくれた家庭もあり、ありとあらゆることに私たちはとても感動した。私たちが日本を理解すると同時に、多くの合宿セミナーの参加青年やホストファミリーなど、今まで中国をあまりよく知らなかった人々も、私たちとの交流を通して、中国について理解を深めることができた。ホームステイや合宿セミナーで、私たちは日本人との間に友情の絆を結んだ。ホストファミリーと合同で団員の誕生パーティーを開いたり、日本の青年たちと行った卓球大会などを通じ、交流を深めることができた。

日本人の仕事を尊ぶ精神も、私たちにとって深く印象に残った一面である。日本人は自分がいかなる仕事についていても、真面目に責任をもって仕事をやり遂げる、と感じた。買い物をしたときの紙袋からもホテルの部屋の装飾からも、どこからも職業意識の高さが感じられた。だが、このことを私たちに一番強く感じさせたのは、日本の各受入団体と、コーディネーターの仕事ぶりであった。この1カ月間、見学や訪問がかなり多く、常

にホテル、駅、見学箇所の間を奔走していたが、スケジュールの連携には無駄がなく、各受入先がどこも綿密に計画を立て、周到に準備をして私たちを受け入れてくれた。コーディネーターは訪日団と受入団体間の意思疎通を図り、できうるかぎり私たちの希望をかなえてくれ、どの場所でもスケジュールの説明が正確で、非常にこまやかに考慮されていた。こうした業務遂行の精神は、日本国民の素地そのものの高さを反映したものであり、この素地の高さは更に、法律意識の高さ、設備の健全な維持、環境意識の高さなど、数多くの面に現れている。

また、講義や見学も、私たちに日本に対する理解を深めさせ、視野を広げてくれた。

1カ月にわたる交流で数多くの成果を得たと同時に、私たちはまた、日本側の受け入れで不十分な面のあることにも気づいた。この、21世紀に向けた中国青年交流プログラムが、さらによりよく進められるよう、ここでこの点を記したいと思う。

まず日程の問題である。日本側はこのプログラムのために膨大な努力を尽くし、綿密な作業を進めてこられた。しかし、そのプログラミングは中国側との協議を行っておらず、訪日の効果を不十分なものにしてしまった。この点から、私たちは、今後のプログラミングには、できるだけ中国側と協議するべきだと提案したい。そうすれば、日本側の尽力に対し、より高い効果が得られると思う。

第二に、私たちは、このプログラムは政府間の21世紀のための友情計画だと考えている。中国の関係各部門もこの計画をととても重視して、各部門の優秀な人材を選抜して派遣し、メンバーは目下進行中の自分の業務を中断して、このプログラムに参加した。しかし、訪日期間中に私たちが感じたことは、日本側のこのプログラムの実際の実施団体が、準政府機関から徐々に民間組織へと移っていくということである。そのため、多くの見学箇所が日本の最高レベルのものではなく、日本の

特徴的な部分が欠如していた。日本の産業基盤整備に関する成果を、私たちは完全に学習できたとは決して言えないし、また、日本が産業基盤整備の過程において取得した成果や、学ぶべき教訓、今後の発展の方向などについては、それ以上に学び得なかった。この面に関しては、私たちの当初の予想と大きくかけ離れていた。

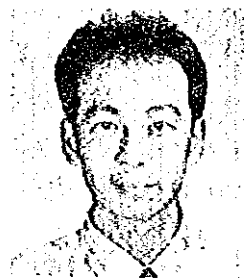
合宿セミナーでは、一般的な話題には多く触れられたが、専門的な問題について論じることは非常に少なかった。これも私たちにとって残念なことである。この残念な結果を生じることになった主な原因は、日本側の参加者が若すぎることに起因すると思う。

しかし、総括すれば、この1カ月の交流プログラムは、全体的には成功をおさめ、相互理解の増進という目的は達成できたと考えている。

最後に一点、どうしても挙げねばならないことがある。私たち、産業基盤整備グループの25人の仲間は、それぞれ異なる地区、異なる職場から集まってきたが、皆の団結、協力の精神が、今回のプログラムを順調に進行させた重要な要素となった。25人の仲間は、1カ月間の毎日の生活を通じて、厚く固い友情を結んだ。

忘れがたい日本の旅

羅 輝
(経済開発グループ)



日本、美しい国。そして今日の日本は、さらにその発展した経済で世界の東方に屹立している。日本、それは中国人にとって、決して見知らぬ国

ではない。多くの中国人は現在日本の先進的な製品が、中国人の生活にもたらしたいろいろな便利さを享受している。今回、私は幸運にも中国経済開発グループの一員として日本に30日間滞在した。そして、日本経済の発展と日本人の熱意溢れる友好の心は私に深い印象を残した。

この30日の間、私たち一行25人はまず東京で簡単に実用的な日本語学習の授業を受け、続いて日本の現代社会と経済に関する講義を聞き、また、日産自動車横浜工場を見学した。

その後、世界的に有名な富士山の麓で、私たち中国経済開発グループは各所から集まった日本青年と共に、50人余りで合宿セミナーを行った。この3日間の合宿プログラム中、私たちは日本青年と寝食を共にし、政治、経済、社会、文化等を含め双方の興味ある問題について討論を行った。中国と日本の青年の生活は異なった社会制度のなかにあり、異なった経済レベルの国の中にあり、ある問題においてはそれぞれ異なった見方をもってはいる。しかし、それぞれに国の建設という重責を担っている青年として、同じであるのは、情熱、友好の心であり、活発さであり、生活を愛しそして責任感をもっているということであった。私たちは、共に歌い、共に踊り、共に平和で美しい世界を築いていく決意をした。

栃木県での10日間の見学中、私たちは日本の地方の経済の発展状況とその地の人々の生活を知ることができた。特に忘れられないのは、私たちグループの一人一人が普通の日本家庭に分かれて2日間を過ごしたことである。ここで、私は私を受け入れてくださった久家弘子さんと彼女のお母さんとお兄さんのことを書かないわけにはいかない。彼女のお母さんは私のために、それはおいしい食事を作り、また一家を挙げて車で私を遠い足利市に連れて行ったり、日本最古の大学を見学させてくださった。私たちは、一緒にスーパーマーケットに行き買い物をしたり、毎日夕食の後、一緒に

テレビを見ながら中国と日本の人々の生活習慣や、家庭の生活等について気軽なおしゃべりをした。私は、弘子さんの一家に心からありがとうと言いたい。彼女たちが私のために周到でこまやかな準備をしてくださったことに感謝している。この2日間のホームステイを通して、私は弘子さん一家とお互いの友情と理解を深めることができたと思っている。私は、いつか彼女の一家が北京に来てくださることを心から願っている。

栃木県のさまざまな友人の皆さんが、私たちのプログラムのために、最大の誠実さで、最大の便利さを提供する努力をしてくださったことも、私たち一人一人の参加に深い印象を残した。私は永遠に皆さんの誠実な笑顔を忘れないだろう。

最も美しく楽しい時間は、いつでも飛ぶように過ぎていく。あっという間に私は日本での訪問を終え、私を生み私を育てた所に戻ろうとしている。この別れ難いときにおいて、どのように言葉を尽くしても私たちの気持ちを表すことはできないだろう。私はただ、中国で誰もがよく知っているこの言葉を借りて言いたい。「こんなに良い人々である皆さんの一生が平和でありますように」と。そして、中日両国が世代代友好的な関係でいられるように願っている。

最後に、全日程中私たちに同行してくださった、湊谷勝氏および日本のスタッフの皆さんに特に感謝したいと思う。

訪日感想

施 虹
(地域振興グループ)



緊張し、また楽しかった訪日がもうすぐ終わろうとしています。あと2日で私たちはこの美しい日本を離れ、帰国します。今回の訪日は私たちにとても印象深い、楽しいものでした。いくつかの感想を述べてみます。

まず私はJICAに感謝したいと思います。JICAが企画実行してくれなかったなら私たちの今回の訪日はなかったでしょうし、またJICAの心のこもった手配がなかったなら、私たちの訪問もこのように成功しなかったはずです。JICAは私たちに食事とホテルを手配したばかりでなく、私たちの専門にマッチした見学や訪問プログラムをきめ細かく計画し、おかげで私たちは家に帰ったようなくつろいだ気分で、すべての訪問プログラムを軌道からはずれることなく、整然と進めることができました。

次に、今回の訪問の成果について書いてみます。北京での説明会では日本大使館の垂秀夫先生が日本の三権分立制度を紹介し、日本に来てからは「現代日本社会」と「産業と経済」の講義を聞き、私たちは日本の経済、政治についてだいたいのことが分かりました。千葉県企業庁の「幕張新都心計画」、自治省の「地方分権と地域振興」、および鳥取県の「地域振興計画」の講義を聞き、また幕張新都心、鳥取県の鬼ミュージアム、境港の博覧会会場などの地方自治体が地方の経済の発展のために建設した施設を参観して、日本の地域振興のこ

とが少し分かりました。そしてまた、広島、京都、大阪などの都市を視察し、日本の歴史、伝統文化について理解を深めることができました。

私たちは日本の青年との3日間の合宿セミナー、日本の一般家庭ではホームステイをしました。セミナーとホームステイを通して、日本の青年と一般の人々の考え方、生活習慣が分かっただけでなく、両国の人々の幸せへの憧れ、平和と友情が長く続くように望む気持ちは同じだと感じました。何日か生活を共にして、みんな友達になりました。鳥取県では、とっとり青友会の長谷川さんの親切なおもてなしを受け、鳥取県の人々に歓迎していただき、鳥取県は私のもうひとつの故郷になりました。中日両国の人々の理解と友情を深めることができたことは今回の訪問の最大の収穫だと思います。

最後に、ずっと私たちに同行して、至れり尽くせりの世話をしてくれた本木さん、浅沼さん、加藤さんにお礼を言わなくてはなりません。私たちのすべての収穫は彼らなくしてはあり得ません。彼らの勤勉さを私たちは見習わなくてはなりません。

私たちの今回の訪問の成果はとても大きいものです。日本への理解、日本の人々の深い思いやりを携えて、私たちは母国に帰ります。さようなら、日本。中日両国の人々の友情が末長く続きますように。

忘れがたき沖縄

王曉明

(人材育成グループ)



1996年11月末から12月の初めにかけて、私は中国実務者訪日団人材育成グループの一員として沖縄において10日間の研修、交流と見学を行ったが、沖縄は私に忘れがたい印象を残してくれた。

忘れがたき沖縄。私はこの美しい亜熱帯の島特有の自然の景観と爽やかな空気が忘れられない。ここは花が咲き乱れ、太陽が燦々と輝き、海が透き通り、空が青く澄み渡っている。銀色の砂浜に貝や珊瑚が満ち溢れ、椰子の木が海の風に揺れている。

忘れがたき沖縄。私は沖縄が長い発展と交流の歴史のなかで育んだ独特の琉球文化と芸術が忘れられない。色鮮やかな染物、造形のすっきりした陶器は目新しく、優雅な琉球舞踊と守礼の風俗習慣は神秘的な魅力に満ち溢れていた。

忘れがたき沖縄。もっとも忘れがたいのは沖縄の人々の、中国と、はるばる中国から来た中国青

年に対する友好の心である。識名園、首里城と南海王国琉球の見学を通じて、沖縄と中国の長い友好交流の歴史を知ることができ、学校訪問とホームステイを通じて、お年寄りから若者まで多くの人が中国に対して非常に興味をもっていることを知ることができた。ホームステイのとき、私と胡君を受け入れてくださったホストの運天正雄、恒子ご夫婦は60歳の年齢にもかかわらず、車を走らせて多くの美しい自然風景と独特の琉球芸術を見せてくれたり、中日両国の長い友情の歴史を物語る遺跡を案内してくれたりした。ご夫婦は沖縄には自分たちと同じように中国が大好きで、中国人に親近感をもった人が大勢いると教えてくれた。ある晩、恒子さんは私と胡君を伝統音楽を聞かせるレストランに連れて行ってくれた。琴奏者は中国の青年がいると分かった、次々と十数曲中国の曲を弾いてくれた。はるか異国の地でこんなに多くの祖国の音楽を聞くことができ、感動で胸がいっぱいになった。

忘れがたき沖縄。私は沖縄滞在中の10日間の一日一日が忘れられないし、中日両国人民の長年の伝統的友情が忘れられない。このように長く受け継がれてきた友情がさらに末長く続くことと中日両国の世代代の友好を心から祈っている。

忘れがたき沖縄。機会があれば、ぜひまたこの美しい沖縄に来たいと思う。

3. 合宿セミナー—参加日本青年の声

合宿セミナーに参加して

北村 文子
(会社員)

私は、以前、中国に興味をもち、留学しようと決めたとき、ある人に、何も開発途上国へ行かなくても、と言われたことがあります。

そのときは、そうじゃないんだと思いながらも、言葉にできず、悲しい気持ちになりました。今回の合宿セミナーでは、そのときの気持ちが言葉になって蘇ってきました。国や民族が違えばそれぞれに文化があり、お互いに学ぶことは、たくさんあるし、ましてや中国となると、隣国で、お互いに理解し合うことがとても重要なことだということです。

今回の合宿セミナーでは、みんなが自然と、お互いのことを知ろう、理解しようという気持ちで接していたし、なかでも、全体会るとき、公務員の仕事についての発表を聞いていると、前列に座っていた大学生が「中国の公務員は、みんな定時で帰るんだって」と、自分の知ったことを他の人にも教えたくて、後ろを向いて話してくれたことは、とても印象的でした。

分科会ディスカッションの始まりには、中国側から、日本側青年のすべてが専門知識をもっているわけではないことで、不満があったようですが、

すぐに、気持ちを切り換えてくださって、経済のこと、文化、教育や生活のことなど、いろいろな分野の事柄について、お互いの国の事情をゆっくりと話し合うことができました。また、日本人でありながら知らなかった日本のことを、中国の方の問題提議によって、詳しく知ることもできました。

そして、少し勉強したけれど、普段は全く使う機会のない中国語を使って話すことができ、勉強しておいてよかったと思えました。

短かったセミナーも終わり、みんなとのさよならは寂しかったけれど、帰宅する新幹線の中では、周りのよく聞き取れないヒソヒソ話が、中国語に聞こえてしまうという後遺症を残し、久し振りに誰かと心が触れ合えたという温かい気持ちに包まれていました。

この合宿セミナーに参加する機会を与えてくださった世界青少年交流協会の方々や、世界青年徳山友の会に心から感謝しています。



21世紀は青年が主役

畑中 恵吉
(公務員)

このたび、合宿セミナーにおいて私たち日本青年はたいへん価値のある体験をさせていただきました。言葉の違いはあるものの、さまざまな交流を通じ有効を深めることができました。

お互いの考えや関心、抱えている悩みなどを話し合うグループディスカッションでは、活発な意見が交わされ、たいへん有意義なものとなりました。一つのテーマに共に取り組むことによってお互いの理解が深まり、心と心のつながりを感じました。スポーツ交流においても一つ一つのプレーに熱が入り、真剣さのなかにも笑いが溢れ、たいへん盛り上がりました。交流パーティーやお酒の席では両国の自慢の歌や踊りが披露され、お互いが最も友好を深める場となりました。

この合宿セミナーで最も強く感銘を受けたのはお互いの考え方、価値観にほとんど変わらないことでした。それは、私たちが未来を真剣に考えている同じ青年だからだと思います。

同じ考えをもった日中の青年がお互いに協力し、支え合うことは、両国の発展だけでなく、世界への波動をも広げていくことだろうと思います。その意味で日中両国のこれからの役割はますます大きなものになると考えています。

国際交流には言葉の違いが大きな壁になっているようですが、今回の合宿では筆談や身振り手振りなどあらゆる伝達手段を使って考えました。相手を理解しよう、してもらおうとする気持ちが、お互いの友好、信頼に大切なことだと思いました。

私たち21世紀を担う青年一人一人が、お互い友好、信頼を深め、明るい未来を築いていくことが私たちの使命であると考えています。

最後に、合宿セミナーにおいて私たち青年を陰

で支えてくださった関係者の皆さんに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

富士山をバックに—私の交流記

新井 基益
(会社員)

「私にできる国際交流というのは何だろう」

今回、私がこの合宿セミナーに参加する前に考えたことです。

このプログラムに参加したきっかけは、私は旅好きで、いろいろな地域を歩きます。そこでいつも感じるのは、人にはいろいろな価値観や常識が存在しているのだということです。

しかし、それでも人間の基本である喜怒哀楽は同じように思うのです。私は今回、このプログラムで交流する皆さんと一緒に生活し、それぞれの文化や習慣を話し合うことで多くのものを共有できればと思いました。

私は中国地域振興グループの青年とプログラムに参加しました。山中湖で2泊3日、スポーツやディスカッション、懇親会を通して、想像以上に多くのことを学び経験しました。

なかでも、分科会（ディスカッション）では、あらかじめ決めていた議題もさることながら、日本と中国の生活習慣の違いや流行、ついには郷土



料理自慢、と話は大いに盛り上がり、生きた情報交換ができました。

最終日の懇親パーティーでは、参加者全員が待ちに待ったという感じで、パーティーが始まるや否や大騒ぎでした。短い日程にもかかわらず、生活を共にした友人たちと心からの交流でした。歌を歌い、ダンスをし、ゲームをして皆、最高の夜を過ごしました。

私はこのプログラムを通して、お互いを理解することの大切さ、育った環境、文化、習慣は違うけれど、人間の基本は変わらないのだと強く感じました。

合宿セミナーの帰り際、なかなか姿を見せなかった富士山をバックに、皆で撮った写真を見るたびに、中国の青年のやさしい心遣い、日本の皆の努力を思い出します。本当にありがとう。

静夜思

進藤 重光
(会社役員)

「ワタシハ、オンセンガ、トテモ、スキ、デス」。そう何度も繰り返す彼らとともに広々とした露天風呂に入って、夜空の月を眺めることができたのは、温泉好きの私にとって、ことのほかうれしい文字通り裸の付き合いだった。

古来から人は何度月を眺めただろう。あるときは悲しく、あるときは不気味に、またあるときは美しく、それは人間の心を照らしてきた。お湯を掛け合いながら楽しむ彼らを見つめながら、NGOのコーディネーターとして派遣されたルワンダの、大量虐殺があった銃弾の跡の生々しい首都キガリを思い出した。同僚が病に倒れ、まだ夜の7時だというのに人が出歩かない寒々とした街で、一人



ホテルの部屋からあまりにも清らかな月の光を見つめていた孤独な自分を思い出した。

つい3カ月前まで、野犬が路上に溢れる人間の死体を食べていたという。恐らくその光景が忘れられないためだろう。人々の目はどこか虚ろで、何かに怯えた光をたたえながら毎日を過ごしている。この同じ月の光を、自分の友人たちが平和な世界で何気なく見ているのかと思うと、本当に同じ地球の上の出来事なのかと胸が締め付けられ泣き出したくなったのを思い出したのだ。

ポータレレスの時代、国境を超えての環境問題、人口問題、貧富の格差の広がり、競争の激化、そして民族紛争……。私たちを取り巻く環境と将来は決して薔薇色ではない。むしろ難問が山積の感さもある。

そんななかでも「ワタシハ、オンセンガ、トテモ、スキ、デス」と、何度も何度も呟く彼の笑顔を見ていると、未来への希望がわいてくるような気がした。肩書きや、学歴を取り去って裸になり共に温泉で月を眺め酒を酌み交わす。大笑いをし、肩肘を張らない、個人と個人の友情の深まりが、明日の問題解決の小さいが着実な一歩になるのだろう。ゆるやかな時間を中国の友人たちと過ごすことができる神の恵みのなかで、今、私は未来を信じている。

4. ホストファミリーの思い出

ホーさんの餃子

渡辺 美幸
(山口県)

今回のホームステイ受け入れのハイライトは、何といってもホーさんの餃子づくり。日本で、しかもわが家の食卓で本場手づくりの餃子が食べられるなんて感激……。本当にあっという間の3日間でした。

材料の買い出しから始まり、時間と手間をかけ小麦粉を一生懸命こね、一枚一枚麺棒でピーとのぼし、わが家の貧弱でお世辞にも調理向きとはいえない包丁で、ネギの微塵切りに涙を流しながら、餃子づくりに専念しているホーさんの姿には、何か口では言い表せないような感動を覚えました。中国では長江航務管理局の所長としてエリート路



線を進んでいる人の姿とは思えない無邪気で律義な様子は、とても心の大きな人に思え、心がほんわかしてきました。あれほど心配していた言葉の通じないハンデなんてとても小さなことのように思え、急に勇気がわいてきました。

食事の支度もそこそこに、どこに行っても紙とペンを片手にお互いに思っていること、言いたいことを一生懸命に書きながらお互いの気持ち心が通じ合ったときの爽快感や充実感は、言葉の違いを超えて地球は一つという一体感を私に与えてくれました。

茹であがった餃子を熱いうちにと自分は台所に残り、私たちに食べさせてくれたホーさん。心の温かいホーさんの気持ちと餃子のおいしさは、私の心の中に染み込んで忘れられない思い出となることでしょう。

そして団長の王さんの明るくおおらかで、スーッと人の心の中に温かいものを残してくれる人柄は、本当の国際人だと痛感させられました。

雄大な三峡の自然をぜひ見に来てほしいと言ってくれたホーさん。明るさと無邪気さと偉大さを教えてくれた中国の皆さん。私の明日への活力を与えてくれて、謝謝。

大陸発の暖かい風

田坂 千会
(栃木県)

私の家にホームステイしたのは、鄭毅さんです。幸いにも私が所属するクラブの他のメンバー3人もホームステイの受け入れをすることができ、皆で歓迎パーティーやクラブの活動、餃子づくりをしました。何よりうれしかったのは、初めてにもかかわらず、笑顔で、すんなりとクラブの活動に参加したくださったことです。いろいろな国の歌に合わせて歌ったり踊ったりするのですが、歌はうまいし踊りはうまいし……。何より私たちの拙い中国語を熱心に聞いて、理解しようと努力してくださったのには感謝しています。

興奮と楽しさのなかで夢のように過ぎた3日間でした。自然に楽しく、子供たちも実の叔父さんに会ったように、のびのびと甘えて過ごすことができました。人見知りの激しい私の姪が、「ジョン・イーさん」と名前を呼んで抱っこしてもらっていたのは驚きでした。子供たちにそうさせるほど明るく楽しく、優しい方でした。

中国の方はまじめで努力家だという印象は持っていました。実際に中国の方に会ってみて、人間的にも豊かだと感じました。まさに大陸で育まれた広く大きな心を持った人たちでした。3日間本当に私たちの心をなごませ、温かい感動と興奮を与えてくださったことは忘れません。

別れの日に一緒に行ったカラオケで、中国語の歌がないのを詫げる私たちに、伴奏は必要ないよと言って歌ってくださった歌は力強く豊かで、深く私たちの心にしみました。賢さん、王さん、申さん、そして誰より鄭毅さん、あなた方の笑顔と歌声を私たちは決して忘れることはないでしょう。そして大陸発の大きな暖かい風に吹かれていたような心地良い3日間のことも。

謝謝大家、我永远不会忘記你們。

ホームステイを受け入れて思うこと

中原 聡
(鳥取県)

ホームステイを受け入れるうえで、ヨーロッパ信仰のようなもの、逆に言えば、アジア、アフリカ軽視の考えを感じることがあります。でも実際ホームステイをしてみれば、言語、宗教、風俗、習慣等の違いはあるけれど、基本はその人となりだということが分かります。そんななかで感じたことを一言。

〈感想その一〉

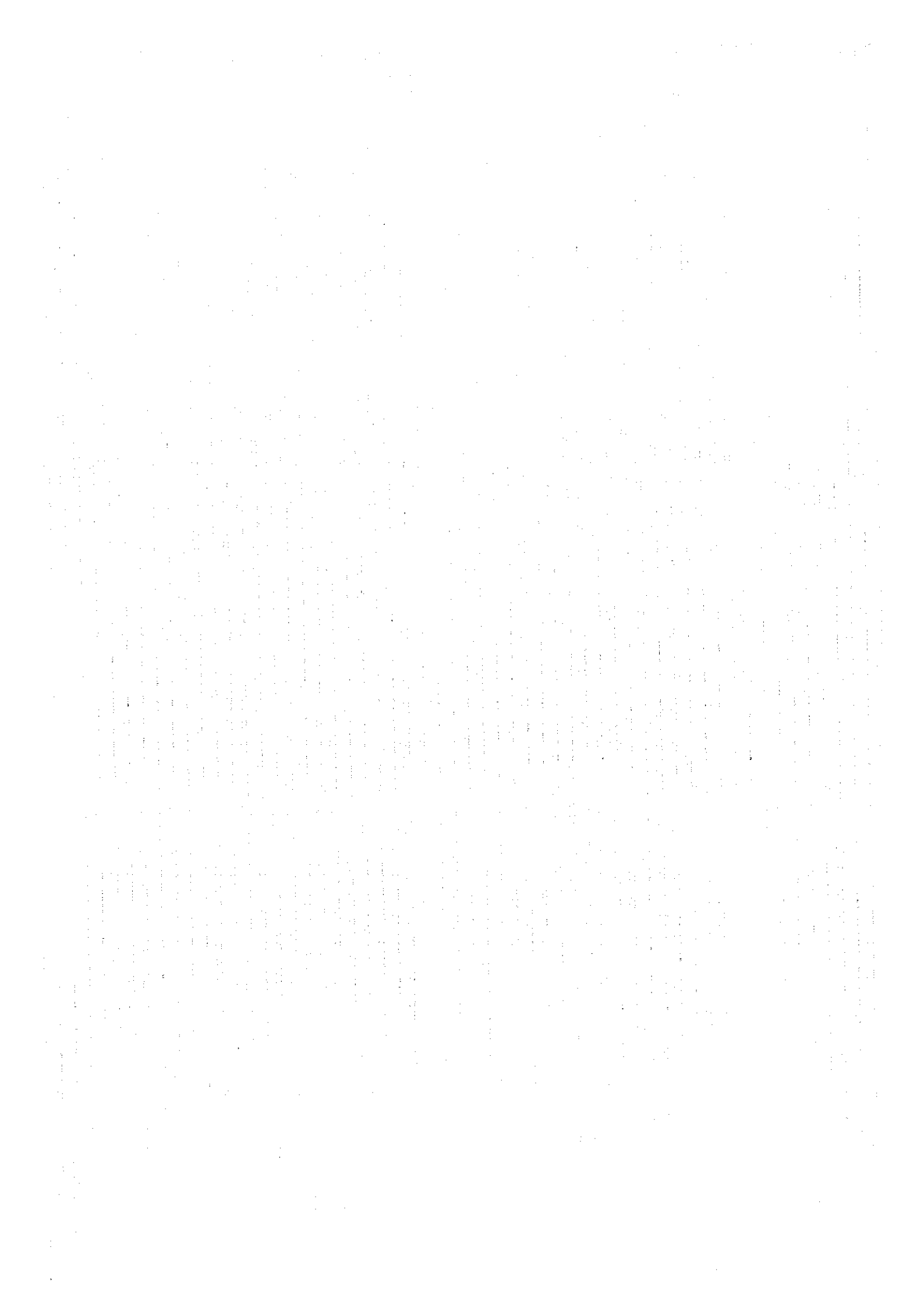
中国の青年を家へ招待する話が来て、私は内心引き受けてみたいと思いました。でもまずは、一番大変であろう妻の快諾を得なければなりません。そしておじいさん、おばあさんの了解と、子供たちの興味をひくことも。さいわい妻もぜひやってみようと言ってくれうれしく思いました。

〈感想その二〉

共通語は、お互い（私と中国青年だけ）の片言の英語だけです。私たち家族は中国語は話せないのです。でも相手になんとか理解してもらおうとする気持ちをお互いにもてば、うまくいくように思いました。

〈感想その三〉

他の人から「ホームステイを受け入れて、さんざんだった」と聞くことがあります。とても残念に思います。言葉、宗教、風俗、習慣等少しだけ相手のことを知っておくだけで「さんざんだった」という結果にはならないと思います。ホームステイを上手にするノウハウもいくらあるようです。少しの努力で、大きな喜びが得られるのがホームステイだと思いました。



実績資料

1. 実績一覧

(1) 「新日中青年の友情計画」実績一覧

●平成4年度 (99名)

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
青年指導者	25	日本ユースホステル協会	愛知	東海	愛知ユース・ホステル協会
経済青年	25	日本経済青年協議会	大阪	関西	インターコミュニカ・大阪
公務員	24	国際交流サービス協会	沖縄	沖縄	(財)沖縄県青少年育成県民会議
教員	25	青年海外協力協会	兵庫	関西	兵庫県世界青年友の会

●平成5年度 (98名)

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
青年指導者	25	日本ユネスコ協会連盟	新潟	関東	新潟ユネスコ協会
経済青年	24	日本経済青年協議会	鹿児島	九州	(財)鹿児島県国際交流協会
公務員	25	国際交流サービス協会	三重	東海	三重県連合青年団
教員	24	青年海外協力協会	岡山	中国	津山とアジアを結ぶ会

●平成6年度 (100名)

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
青年指導者	25	青少年育成国民会議	岩手	東北	(財)岩手県国際交流協会
勤労青年	25	日本経済青年協議会	鹿児島	九州	(財)鹿児島県国際交流協会
公務員	25	日本ユースホステル協会	宮城	東北	宮城県ユース・ホステル協会
教員	25	青年海外協力協会	石川	北陸	(財)石川県国際交流協会

●平成7年度 (98名)

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
青年指導者	25	日本青年団協議会	岡山	中国	(財)岡山県青年館
勤労青年	25	日本経済青年協議会	三重	東海	三重県連合青年団
公務員	23	国際交流サービス協会	長崎	九州	(財)長崎県国際交流協会
教員	25	日本ユネスコ協会連盟	福島	東北	福島ユネスコ協会

●平成8年度 (100名)

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
青年指導者	25	日本ユースホステル協会	宮城	東北	宮城県ユース・ホステル協会
経済青年	25	日本経済青年協議会	長崎	九州	長崎県世界青年友の会
公務員	25	ユースワーカー能力開発協会	福井	北陸	武生市国際交流協会
教員	25	日本国際協力センター	兵庫	関西	(財)兵庫県青少年本部

(2) 「新中国実務者招へい計画」実績一覧

●平成4年度(100名)

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
地域産業技術実務者	25	日本国際協力センター	福岡	九州	福岡県海外青少年招へい事業実行委員会
経済・貿易実務者	25	ユースワーカー能力開発協会	埼玉	関東	上尾市国際交流協会
産業基盤整備実務者	25	青少年育成国民会議	和歌山	関西	(財)和歌山県青少年育成県民会議
文化・教育関係実務者	25	世界青少年交流協会	岡山	中国	岡山県世界青年友の会

●平成5年度(99名)

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
産業基盤整備実務者	25	日本国際協力センター	福井	北陸	(財)福井県国際交流協会
経済開発実務者	25	ユースワーカー能力開発協会	山梨	関東	(財)青少年育成山梨県民会議
地域振興実務者	24	青少年育成国民会議	沖縄	沖縄	(財)沖縄県青少年育成県民会議
文化・教育実務者	25	世界青少年交流協会	香川	四国	香川県海外派遣友の会

●平成6年度(100名)

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
産業基盤整備実務者	25	日本国際協力センター	北海道	北海道	苫小牧国際交流センター
経済開発実務者	25	国際交流サービス協会	長崎	九州	長崎県世界青年友の会
内陸地域振興者	25	日本友愛青年協会	鳥根	中国	友愛青年連盟鳥根県支部連合会
文化・人材育成	25	世界青少年交流協会	岐阜	東海	(財)大垣国際交流協会

●平成7年度(99名)

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
産業基盤整備	25	日本ユースホステル協会	鳥取	中国	とっとり青友会
経済開発	24	勤労厚生協会	愛媛	四国	(財)愛媛県国際交流協会
地域振興	25	世界青少年交流協会	香川	四国	香川県海外派遣友の会
人材育成	25	青少年育成国民会議	沖縄	沖縄	(財)沖縄県青少年育成県民会議

●平成8年度(100名)

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
産業基盤整備	25	世界青少年交流協会	山口	中国	世界青年徳山友の会
経済開発	25	勤労厚生協会	栃木	関東	栃木県外国青年招へい事業実行委員会
地域振興	25	日本国際協力センター	鳥取	中国	とっとり青友会
人材育成	25	青年海外協力協会	沖縄	沖縄	(財)沖縄県青少年育成県民会議

2. 平成8年度青年招へい実績一覧

受入時期 陣・人数	国名	分野名	人数	実施協力団体	実施県	地方団体
5月16日～ 6月14日 1陣 116人	インドネシア	社会開発	25	日本ユースホステル協会	北海道	千歳国際交流協会
	インドネシア	経済A	20	日本経済青年協議会	福井	福井県国際交流協会
	インドネシア	経済B	24	勤労厚生協会	島根	島根県国際交流青友会
	フィリピン	教育	22	青少年育成国民会議	山梨	(株)青少年育成山梨県民会議
	フィリピン	社会開発	25	青年海外協力協会	北海道	青年海外協力隊北海道OB会道東支部
5月22日～ 6月20日 2陣 118人	シンガポール	教育	22	世界青少年交流協会	岡山	岡山県世界青年友の会
	シンガポール	社会開発	25	ユースワーカー能力開発協会	宮崎	ユースワーカー能力開発協会宮崎県支部
	シンガポール	経済B	24	国際交流サービス協会	富山	健とやま国際センター
	タイ	教育	22	青少年育成国民会議	北海道	健北海道YMCA
	タイ	社会開発	25	日本友愛青年協会	岡山	健岡山県青年館
6月15日～ 7月14日 3陣 99人	ヴェトナム	公務員	25	公務研修協議会	北海道	とまこまい国際交流センター
	ヴェトナム	経済	24	勤労厚生協会	大阪	健太平洋人材交流センター
	マレーシア	経済経営	25	世界青少年交流協会	福島	福島県青年海外派遣友の会
	マレーシア	中小企業	25	日本ユースホステル協会	大分	大分県海外協会
6月20日～ 7月19日 4陣 92人	シンガポール	経済A1	20	ユースワーカー能力開発協会	広島	しょうばら国際交流協会
	シンガポール	経済A2	24	日本経済青年協議会	埼玉	上尾市国際交流協会
	カンボディア	教育	30	青少年育成国民会議	山形	健山形県国際交流協会
	ラオス	教育	18	国際交流サービス協会	高知	健高知県国際交流協会
6月27日～ 7月26日 5陣 89人	太平洋混成	公務員	24	青年海外協力協会	愛媛	愛媛県青年海外協力協会
	太平洋混成	教員	23	日本国際生活体験協会	三重	健三重県国際交流財団
	バブア・ニューギニア	公務員	10	世界青少年交流協会	北海道	(株)北海道子ども会育成連合会
	バブア・ニューギニア	教員	20	日本国際協力センター	山口	山口県青年団体連絡協議会
	フィジー	公務員	12	愛知県国際交流協会	愛知	健愛知県国際交流協会
7月13日～ 8月11日 6陣 100人	韓国	青年指導者・公務員	25	日本ユースホステル協会	愛媛	健愛媛県国際交流協会
	韓国	勤労青年(公務員)	25	勤労厚生協会	滋賀	滋賀県青年団体連合会
	韓国	教員(幼稚園)	25	国際交流サービス協会	茨城	平成8年度茨城県外国青年招へい事業実行委員会
	韓国	学生(農水科系)	25	世界青少年交流協会	秋田	健秋田県国際交流協会
8月21日～ 9月19日 7陣 119人	ヴェトナム	教育	25	ユースワーカー能力開発協会	沖縄	健沖縄県国際交流財団
	ヴェトナム	農業	25	青年海外協力協会	熊本	熊本県青年海外協力協会
	フィリピン	経済A	20	日本ユースホステル協会	鹿児島	健鹿児島県国際交流協会
	フィリピン	経済B	24	日本経済青年協議会	香川	健香川県国際交流協会
	フィリピン	農業	25	世界青少年交流協会	青森	青森県青年海外協力協会
8月29日～ 9月27日 8陣 97人	バングラデシュ	公務員	20	青年海外協力協会	北海道	青年海外協力隊北海道OB会道東支部
	ブータン、モルディブ	教育	10	日本ユネスコ協会連盟	佐賀	佐賀ユネスコ協会
	インド	教員(理数科教員)	27	世界青少年交流協会	岐阜	岐阜県世界青年友の会
	ネパール	教育	10	日本国際協力センター	新潟	健新潟県国際交流協会
	スリ・ランカ	教育	10	青少年育成国民会議	和歌山	(株)和歌山県青少年育成協会
	パキスタン	保健医療	20	国際看護交流協会	福岡	健国際看護交流協会

受入時期 ・人数	国名	分野名	人数	実施協力団体	実施県	地方団体
9月11日 ～ 10月10日 9陣 115人	タイ	農業	25	青年海外協力協会	静岡	沼津国際交流協会
	タイ	経済A	20	日本国際協力センター	福岡	福岡県海外青年招へい事業実行委員会
	タイ	経済B	24	勤労厚生協会	愛知	ジャパンヤングサークル東海支部
	ブルネイ	社会開発	16	日本ユースホステル協会	石川	鯖石川県ユース・ホステル協会
	ミャンマー	教育	20	青少年育成国民会議	北海道	青年海外協力隊北海道OB会
モンゴル	公務員	10	国際交流サービス協会	石川	金沢国際交流財団	
9月19日 ～ 10月18日 10陣 113人	マレーシア	農業開発	16	青年海外協力協会	岩手	岩手県国際交流協会
	マレーシア	教育	25	日本国際生活体験協会	京都	青年海外協力協会近畿支部
	マレーシア	科学技術開発	25	豊川市国際交流協会	愛知	豊川市国際交流協会
	インドネシア	農業	25	世界青少年交流協会	香川	香川県海外派遣友の会
	インドネシア	教育	22	日本国際協力センター	山形	山形県青年海外協力協会
10月2日 ～ 10月31日 11陣 100人	中国	青年指導者	25	日本ユースホステル協会	宮城	宮城県ユース・ホステル協会
	中国	経済青年	25	日本経済青年協議会	長崎	長崎県世界青年友の会
	中国	公務員	25	ユースワーカー能力開発協会	福井	武生市国際交流協会
	中国	教員	25	日本国際協力センター	兵庫	兵庫県青少年本部
10月17日 ～ 11月15日 12陣 95人	アフリカ					
	英語圏	女性教員1	28	大阪府国際交流財団	大阪	大阪府国際交流財団
	仏語圏	女性教員2	22	青年海外協力協会	岡山	津山と世界を結ぶ会
	英語圏	経済開発 公務員1	23	国際交流サービス協会	徳島	徳島県青年海外派遣の会
仏語圏	経済開発 公務員2	22	世界青少年交流協会	新潟	新潟県世界青年友の会	
10月23日 ～ 11月21日 13陣 88人	ASEAN混成	教育1	18	大阪府国際交流財団	大阪	大阪府国際交流財団
	ASEAN混成	教育2	17	日本国際生活体験協会	群馬	群馬県国際交流協会
	ASEAN混成	経済1	18	日本国際協力センター	千葉	千葉県国際交流協会
	ASEAN混成	経済2	18	青少年育成国民会議	福岡	(株)九州・山口経済連合会
	ASEAN混成	経済3	17	勤労厚生協会	静岡	静岡県国際交流協会
11月6日 ～ 12月5日 14陣 114人	ASEAN混成	環境保全	30	日本経済青年協議会	北海道	釧路市海外青年招へい事業実行委員会
	ASEAN混成	社会福祉	30	日本ユースホステル協会	石川	小松市国際交流協会
	ASEAN混成	保健医療	30	国際看護交流協会	奈良	国際看護交流協会
	ASEAN混成	行政B	24	国際交流サービス協会	大阪	大阪府青少年活動財団
11月13日 ～ 12月12日 15陣 100人	中国	産業基盤整備	25	世界青少年交流協会	山口	世界青年徳山友の会
	中国	経済開発	25	勤労厚生協会	栃木	栃木県外国青年招へい事業実行委員会
	中国	地域振興	25	日本国際協力センター	鳥取	とっとり青友会
	中国	人材育成	25	青年海外協力協会	沖縄	沖縄県青少年育成県民会議
合計	70グループ 1,555人	ASEAN6カ国(797)、太平洋14カ国・地域(89)、ミャンマー(20)、中国(200)、韓国(100)、南西アジア諸国7カ国(97)、モンゴル(10)、アフリカ諸国38カ国1国際機関(95)、カンボディア(30)、ラオス(18)、ベトナム(99)計72カ国・地域、1国際機関				

